

第2章 高齢者等の状況



1 構成3市町の概況

盛岡北部行政事務合を構成する3市町（八幡平市、葛巻町、岩手町）は、県の北西部に位置し、県都盛岡市とJR東日本花輪線及びいわて銀河鉄道線並びに国道4号、281号、282号及び東北縦貫自動車道等で結ばれています。

3市町の総面積は、1,657.79 km²で県土の10.9%にあたる広大な面積を有しています。

3市町を取り巻く地形は、東部に北上高地、西部には奥羽山脈が南北に縦走し、岩手山をはじめ県内有数の山岳が連なっています。これらの山地の間を、南流する北上川、北流する馬淵川、西流する米代川の各水系からなる河川が流れ、主としてこれらの河川及びその支流の丹藤川、松川等に沿って耕地がひらけ、集落等を形成しています。

気候はおおむね内陸型で、気温の変化が大きく、夏は過ごしやすいが冬は寒冷であり、平地部の積雪は比較的少ないものの、西部の山間部では降雪量も多く、総じて冬期は道路・交通等の状況は厳しくなります。

歴史的には、史跡や縄文時代以来の遺跡等が数多く分布し、古代から中世、藩政時代を経て現在に至る長い歴史を有していることが窺われます。

また、山岳、高原、湖沼等の自然景観が見られるほか、豊富な水資源、森林資源等に恵まれるなど、豊かな自然やぬくもりのある風土を形成しています。



2 人口推移

(1) 総人口の推移と推計

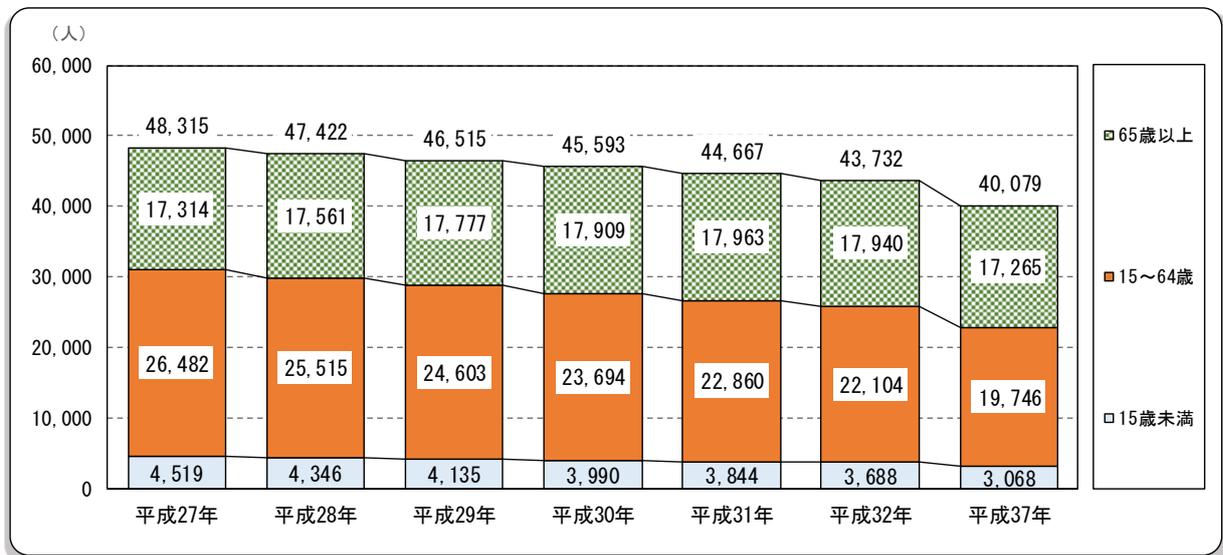
盛岡北部行政事務組合構成3市町の人口の推移は、減少傾向で推移し、平成27年は48,315人、平成28年は47,422人となっており、おおむね900人程度減少しています。

また、推計によると、この減少傾向は続くことが予想され、目標年である平成37(2025)年には40,079人となり、平成27年からの10年間で8,236人減少することが見込まれています。

年齢3区分別人口推移をみると、15歳未満(年少人口)、15~64歳(生産年齢人口)は減少し続けるものの、65歳以上(老年人口)は、平成31年までは増加傾向で推移しますが、平成32(2020)年以降は、減少に転じ高齢者人口の転換期を迎えます。

年齢3区分別人口割合をみると、総人口に対する65歳以上の割合は増加傾向で推移し、年少人口割合、生産年齢人口割合は減少傾向にあることから、少子高齢化の進行が見込まれます。

図表2-2-1 年齢3区分別人口推移及び人口推計



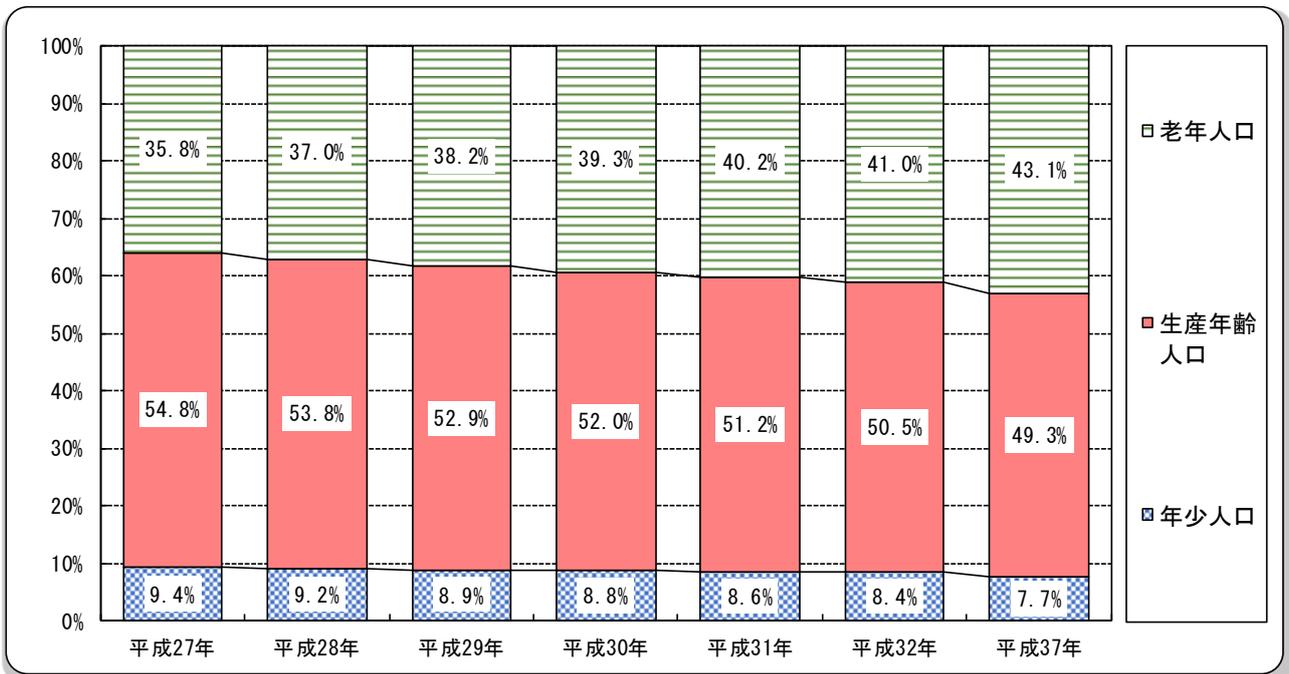
※平成27年~平成28年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、平成29年以降は推計値

■人口推計について

人口推計は住民基本台帳から、コーホート変化率法により推計

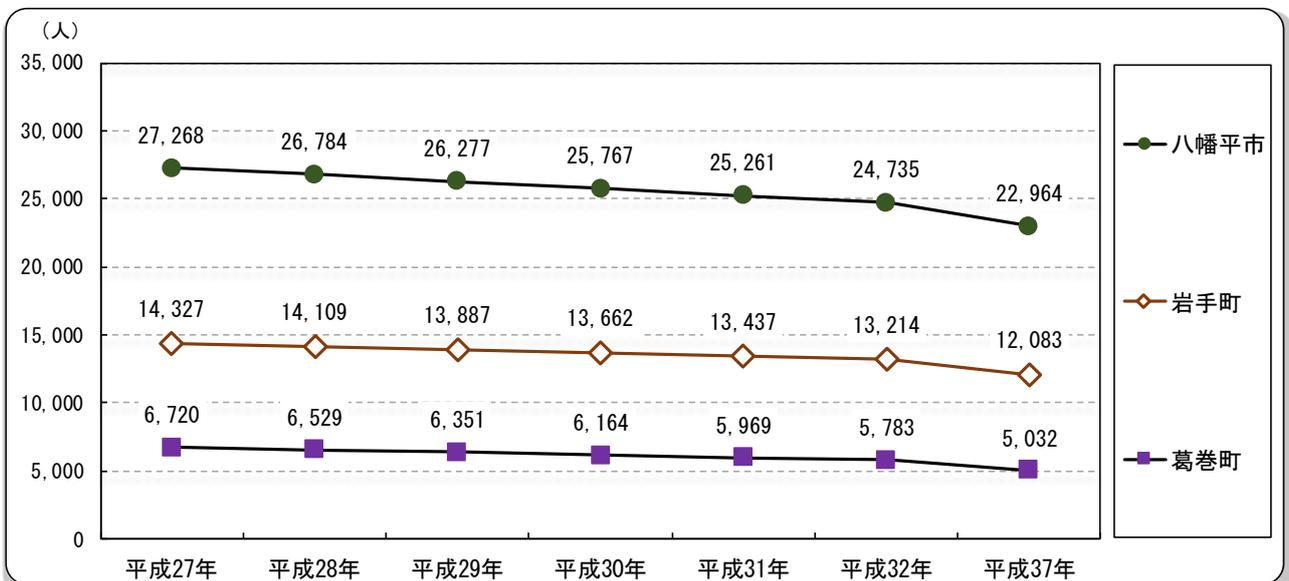
※コーホートとは、同年(または同期間)に出生した集団のことを言い、コーホート変化率法とは、その集団ごとの過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法

図表2-2-2 年齢3区分別人口推移及び人口推計の構成割合



※平成27年～平成28年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、平成29年以降は推計値

図表2-2-3 地域別人口推移及び人口推計

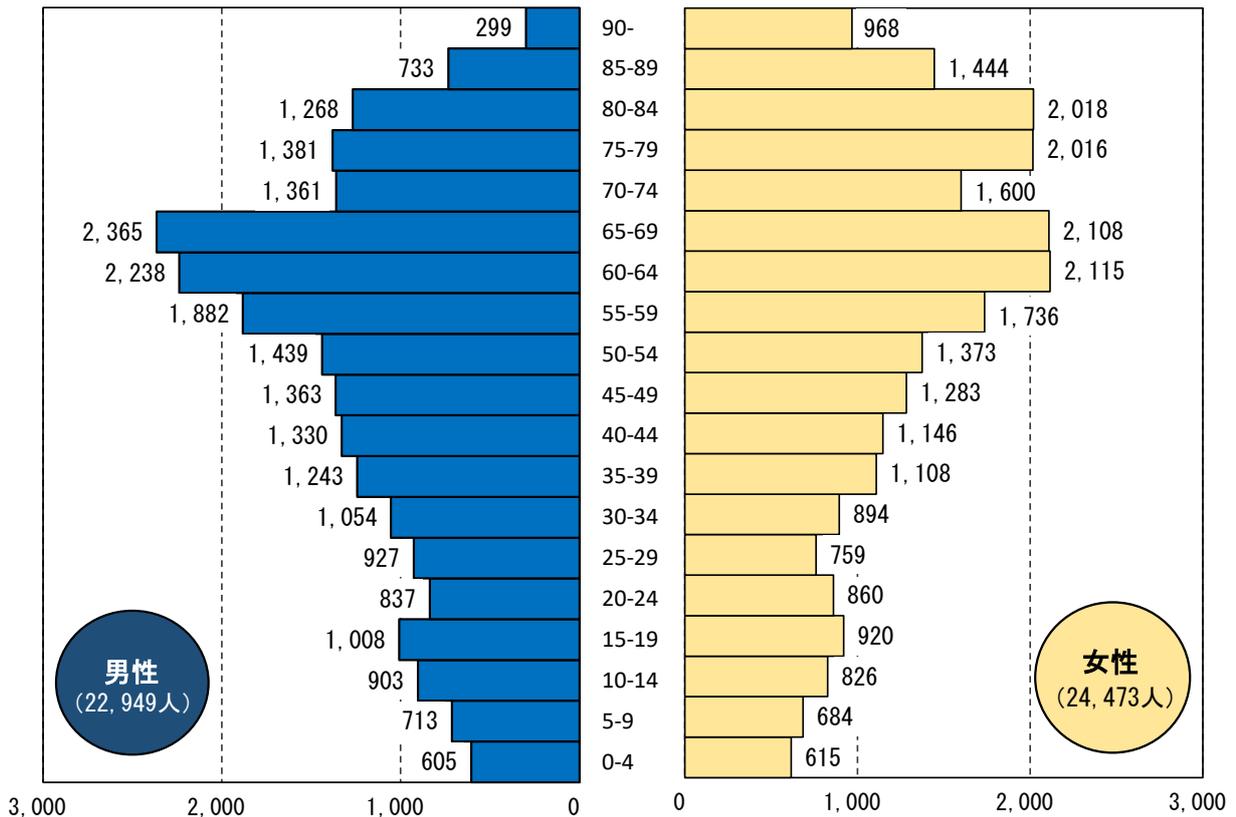


※平成27年～平成28年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、平成29年以降は推計値

(2) 年齢階層別人口構成

盛岡北部行政事務組合構成3市町の平成28年10月現在における住民基本台帳の人口構成を5歳階級別にみると、男性、女性ともに「60～64歳」「65～69歳」の構成が比較的多く、これから数年間は高齢者の増加が見込まれますが、その後は徐々に高齢者数も減少していくものと予測されます。

図表2-2-4 年齢階層別人口構成



※住民基本台帳人口(平成28年10月現在)



3 高齢者等の状況

(1) 高齢者人口の推移

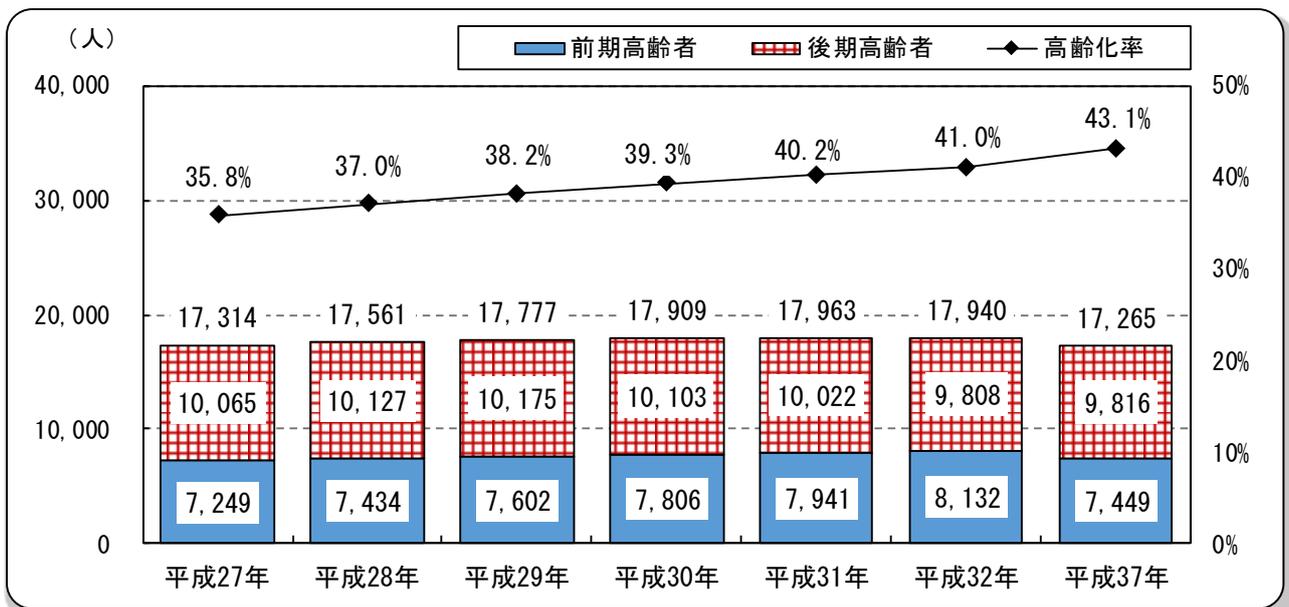
高齢者数は、増加傾向で推移し、平成27年では17,314人、平成28年では17,561人となり、推計によると計画期間最終年の平成32(2020)年では17,940人と、平成27年と比べ626人増加すると見込まれます。

なお、高齢者人口は平成32(2020)年には減少に転じ、平成37(2025)年の高齢者人口は17,265人と推測されます。

また、高齢化率については、平成27年に35.8%であったものが、平成37(2025)年では、43.1%となり、7.3ポイント上昇する見込みです。

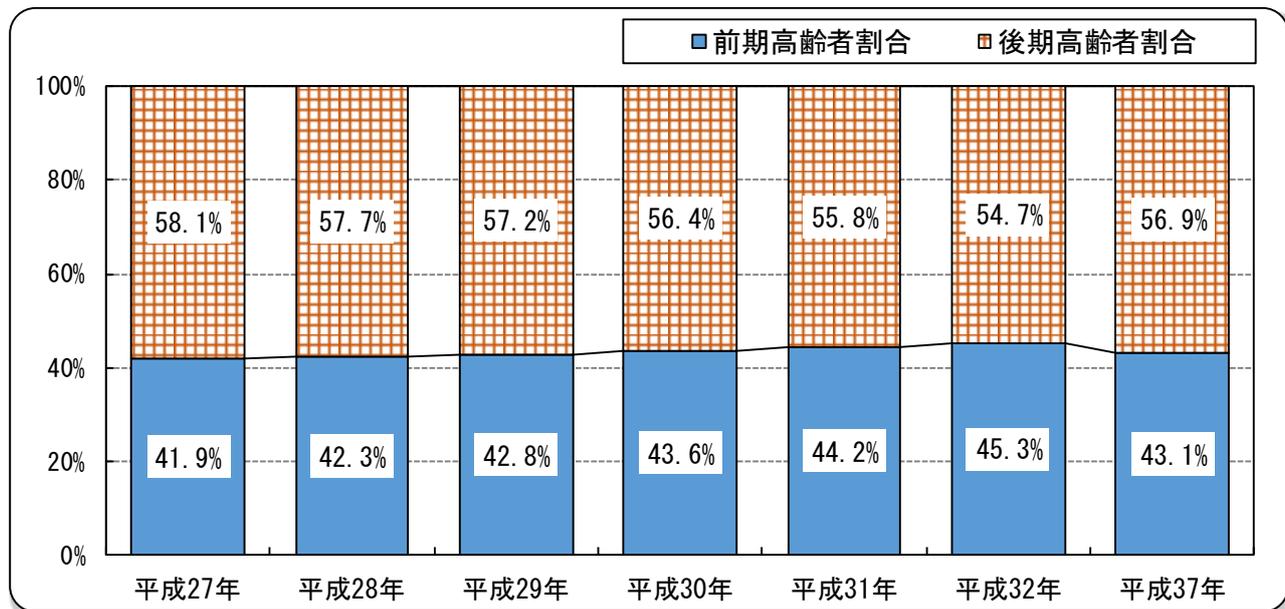
さらに、65歳以上の高齢者を前期高齢者(65～74歳)と後期高齢者(75歳以上)に分けて、その比率をみると、常に後期高齢者割合が前期高齢者割合より多く推移すると見込まれます。

図表2-3-1 前期高齢者、後期高齢者の人口推計



※平成27年～平成28年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、平成29年以降は推計値

図表2-3-2 前期高齢者、後期高齢者の人口推計の構成比

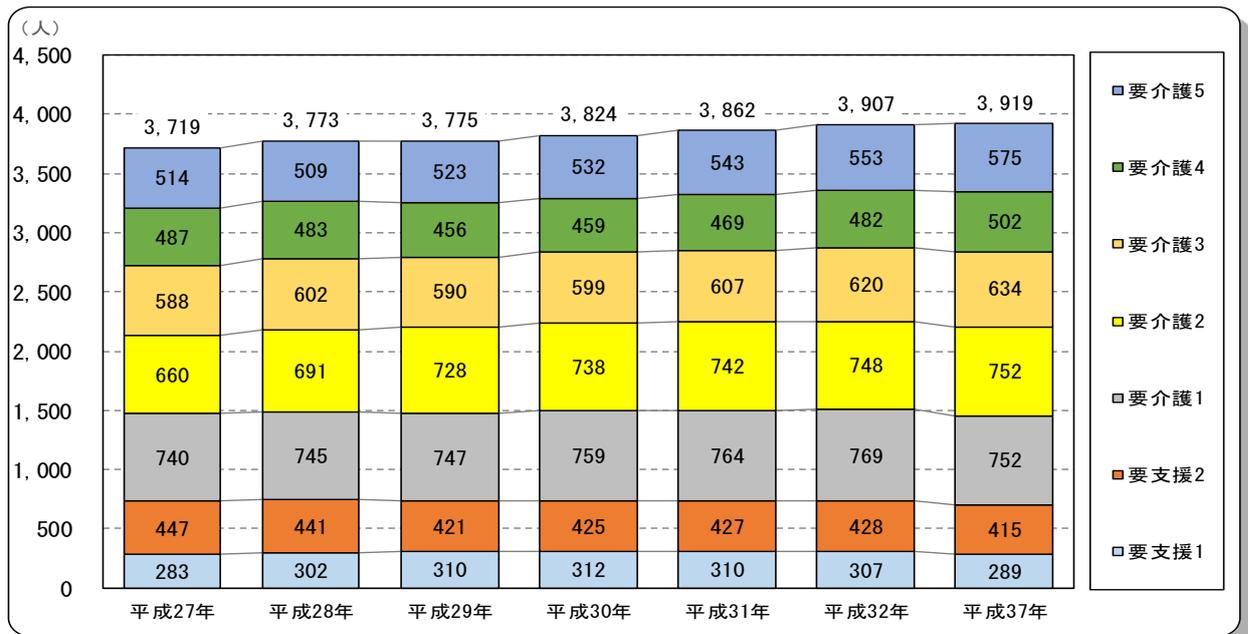


※平成27年～平成28年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、平成29年以降は推計値

(2) 認定者の推移及び推計

平成28年10月時点の高齢者総数における要介護認定者数の割合を基準に、人口推計及び要介護認定率の伸び率により算出した平成29年以降の要介護等認定者数は、増加傾向で推移し、平成32(2020)年の要介護等認定者数は3,907人となります。

図表2-3-3 要介護度別認定者数の推移及び推計①



※平成28年10月時点の高齢者総数における要介護認定者数の割合を基準に、人口推計及び要介護認定率の伸び率により推計している。

※平成27～28年は実績、平成29年以降は推計値

※各推計値は、小数点以下の数値が有効となっているため、認定者数の和が、計・合計と一致しない個所がある。

図表2-3-4 要介護度別認定者数の推移及び推計② (単位:人)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年
認定者合計	3,719	3,773	3,775	3,824	3,862	3,907	3,919
第1号被保険者計	3,612	3,687	3,699	3,761	3,806	3,855	3,871
要支援1	280	301	309	311	309	306	288
要支援2	437	436	416	424	427	428	415
要介護1	725	728	735	744	747	750	735
要介護2	627	663	703	717	726	736	742
要介護3	570	586	576	587	597	610	624
要介護4	472	476	449	458	469	482	502
要介護5	501	497	511	520	531	543	565
第2号被保険者計	107	86	76	63	56	52	48
要支援1	3	1	1	1	1	1	1
要支援2	10	5	5	1	0	0	0
要介護1	15	17	12	15	17	19	17
要介護2	33	28	25	21	16	12	10
要介護3	18	16	14	12	10	10	10
要介護4	15	7	7	1	0	0	0
要介護5	13	12	12	12	12	10	10

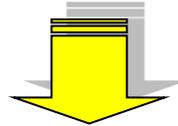
(3) 高齢者世帯の状況

盛岡北部行政事務組合全体で、高齢者がいる世帯の状況を見ると、高齢者のいる世帯は増加しており、平成27年では10,803世帯となっています。しかし、構成市町毎にみると、葛巻町では減少に転じており、高齢者人口と同様に転換期にさしかかっていると考えられます。

図表2-3-5 高齢者がいる世帯の状況

	世帯数 (a)	aのうち65歳以上の親族のいる世帯 (b)	bのうち高齢者単身世帯 (c)	bのうち高齢者夫婦世帯 (d)	高齢者がいる世帯の割合 (b/a)
盛岡北部行政事務組合	17,774世帯	10,484世帯	1,529世帯	2,055世帯	59.0%
八幡平市	9,878世帯	5,658世帯	800世帯	1,073世帯	57.3%
葛巻町	2,727世帯	1,787世帯	306世帯	394世帯	65.5%
岩手町	5,169世帯	3,039世帯	423世帯	588世帯	58.8%

資料:平成17年国勢調査



	世帯数 (a)	aのうち65歳以上の親族のいる世帯 (b)	bのうち高齢者単身世帯 (c)	bのうち高齢者夫婦世帯 (d)	高齢者がいる世帯の割合 (b/a)
盛岡北部行政事務組合	17,334世帯	10,639世帯	1,844世帯	2,220世帯	61.4%
八幡平市	9,647世帯	5,788世帯	955世帯	1,169世帯	60.0%
葛巻町	2,657世帯	1,795世帯	387世帯	418世帯	67.6%
岩手町	5,030世帯	3,056世帯	502世帯	633世帯	60.8%

資料:平成22年国勢調査



	世帯数 (a)	aのうち65歳以上の親族のいる世帯 (b)	bのうち高齢者単身世帯 (c)	bのうち高齢者夫婦世帯 (d)	高齢者がいる世帯の割合 (b/a)
盛岡北部行政事務組合	16,774世帯	10,803世帯	2,204世帯	2,299世帯	64.4%
八幡平市	9,406世帯	5,944世帯	1,143世帯	1,271世帯	63.2%
葛巻町	2,453世帯	1,731世帯	434世帯	407世帯	70.6%
岩手町	4,915世帯	3,128世帯	627世帯	621世帯	63.6%

資料:平成27年国勢調査



4 高齢者等の現状（アンケート調査結果より）

平成28年度に、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、意向調査（一般者、介護認定者、施設入所者）を実施した調査結果を抜粋して掲載します。

（1）調査対象・調査方法・調査実施時期

①調査対象

調査票種別		対象者	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		要介護認定者を含まない 65歳以上の高齢者	2,500件	1,477件	59.1%
在宅介護実態調査		要支援・要介護認定者	1,100件	573件	52.1%
意向調査	一般者調査	要支援・要介護認定者を含まない40歳以上の一般者	1,000件	488件	48.8%
	介護認定者調査	要支援・要介護認定者	1,000件	509件	50.9%
	施設入所者調査	施設サービス利用者	400件	212件	53.0%
合計			6,000件	3,259件	54.3%

②調査方法

郵送による配布・回収

③調査の実施時期

平成29年1月～2月

④図表の表記について

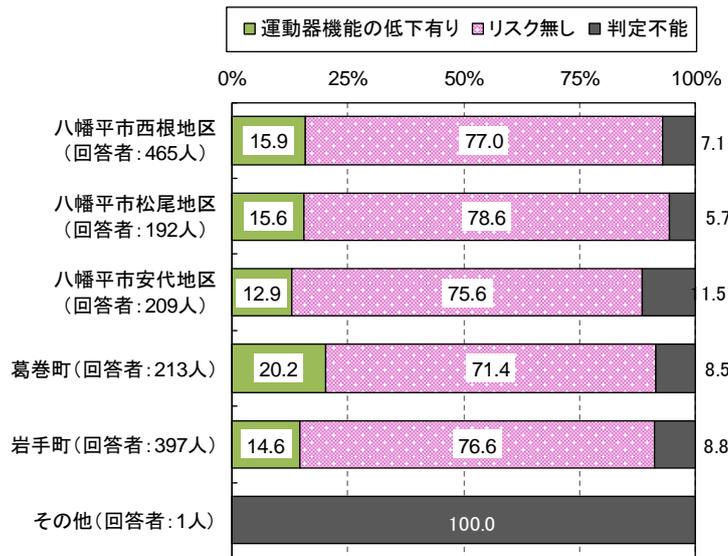
- ・2つ以上の回答を求めている設問である複数回答のグラフは割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・端数処理の関係で回答の割合を合計して、100%にならない場合があります。

(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より（判定結果）

①運動器の機能低下について

居住地区別運動器の機能低下は、「葛巻町」の20.2%が最も多く、「八幡平市西根地区」(15.9%)、「八幡平市松尾地区」(15.6%)となっています。

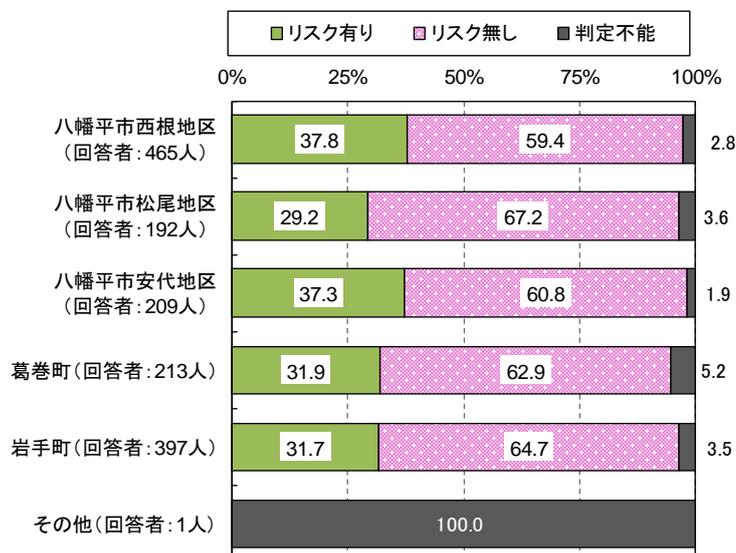
■運動器の機能低下について



②転倒リスクについて

居住地区別転倒リスクは、「八幡平市西根地区」の37.8%が最も多く、「八幡平市安代地区」(37.3%)、「葛巻町」(31.9%)となっています。

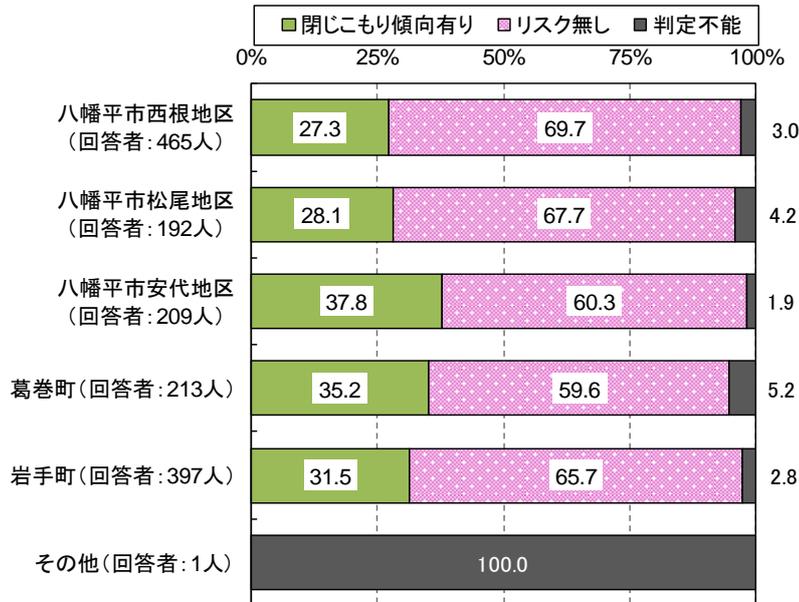
■転倒リスクについて



③閉じこもり傾向について

居住地区別閉じこもり傾向は、「八幡平市安代地区」の37.8%が最も多く、「葛巻町」(35.2%)、「岩手町」(31.5%)となっています。

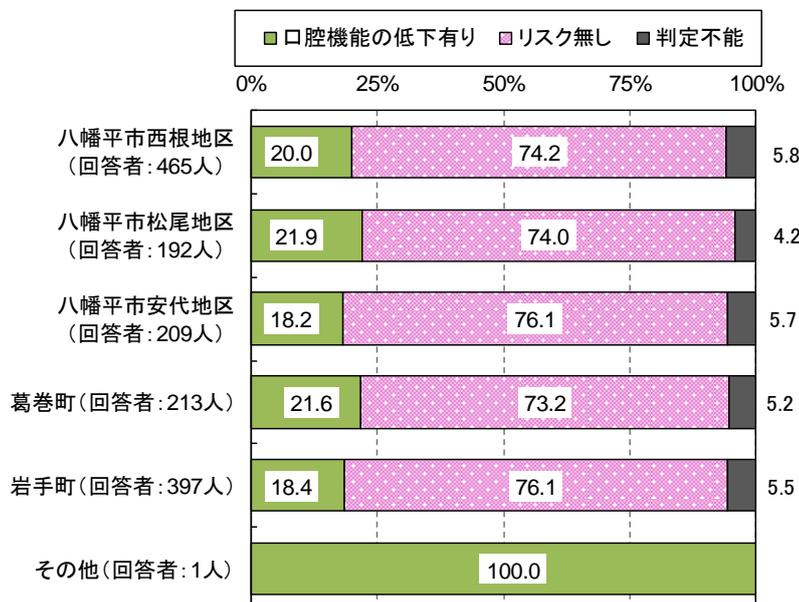
■閉じこもり傾向について



④口腔機能の低下について

居住地区別口腔機能の低下は、「八幡平市松尾地区」の21.9%が最も多く、「葛巻町」(21.6%)、「八幡平市西根地区」(20.0%)となっています。

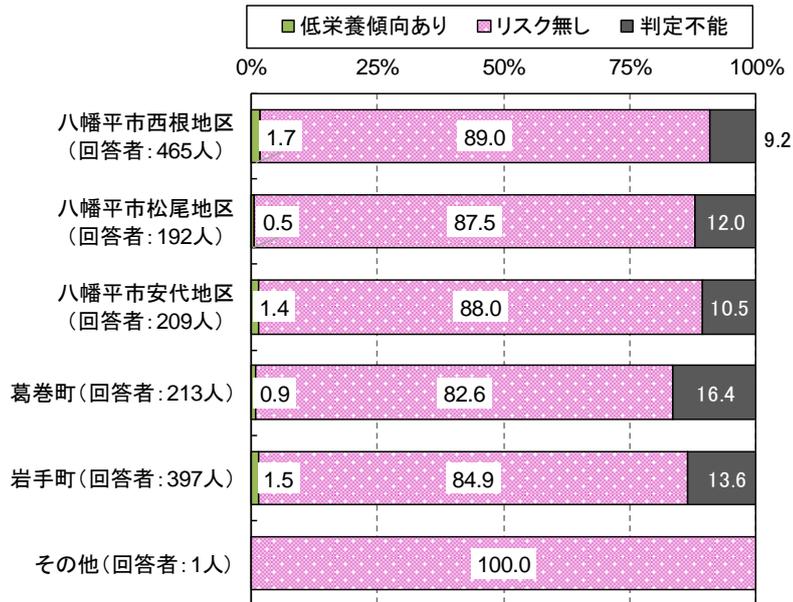
■口腔機能の低下について



⑤低栄養傾向について

居住地区別低栄養傾向は、「八幡平市西根地区」の1.7%が最も多く、「岩手町」(1.5%)、「八幡平市安代地区」(1.4%)となっています。

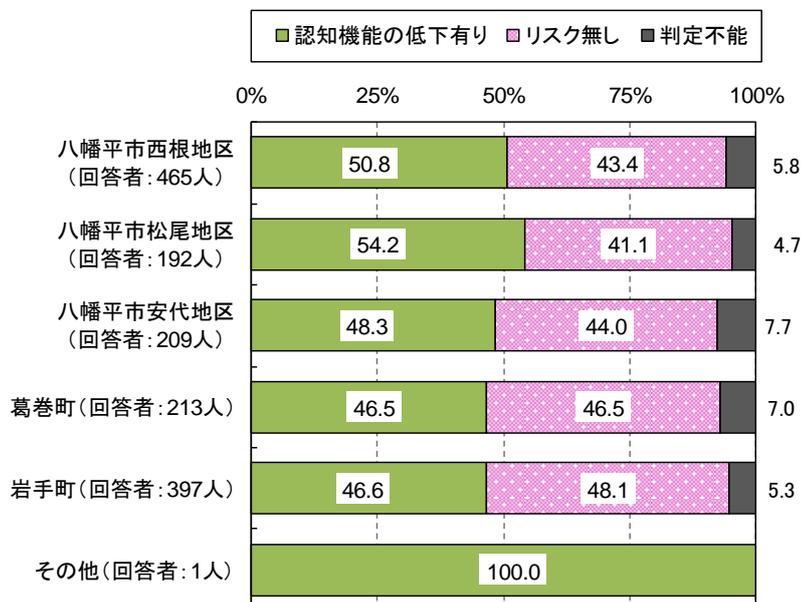
■低栄養傾向について



⑥認知機能の低下について

居住地区別認知機能の低下は、「八幡平市松尾地区」が54.2%で最も多く、「八幡平市西根地区」(50.8%)、「八幡平市安代地区」(48.3%)となっています。

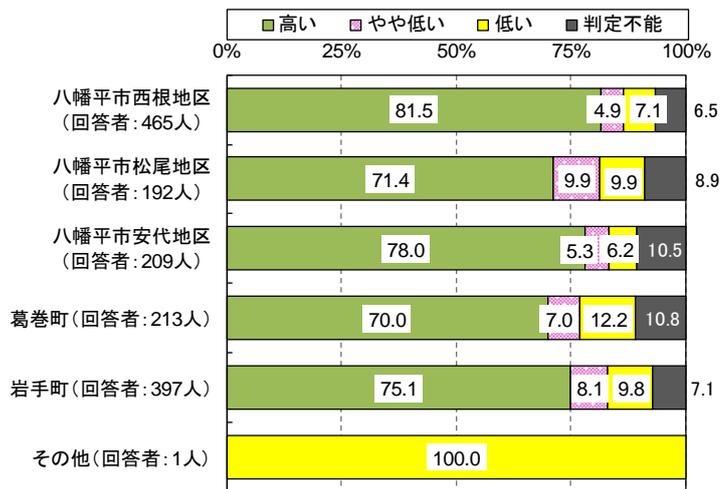
■認知機能の低下について



⑦ IADL^{※1}の低下について

居住地区別IADLの低下（「やや低い」と「低い」の計）は、「八幡平市松尾地区」の19.8%が最も多く、「葛巻町」（19.2%）、「岩手町」（17.9%）となっています。

■IADLの低下について

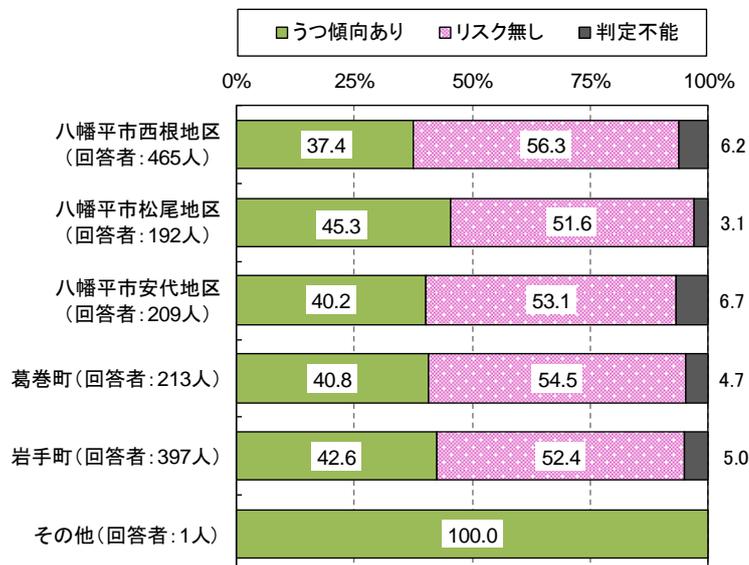


※1:IADL: 買い物・電話・外出など ADL よりも高い自立した日常生活をおくる能力
ADL: 独立して生活するために行う基本的で毎日繰り返される日常生活動作

⑧ うつ傾向について

居住地区別うつ傾向は、「八幡平市松尾地区」の45.3%が最も多く、「岩手町」（42.6%）、「葛巻町」（40.8%）となっています。

■うつ傾向について

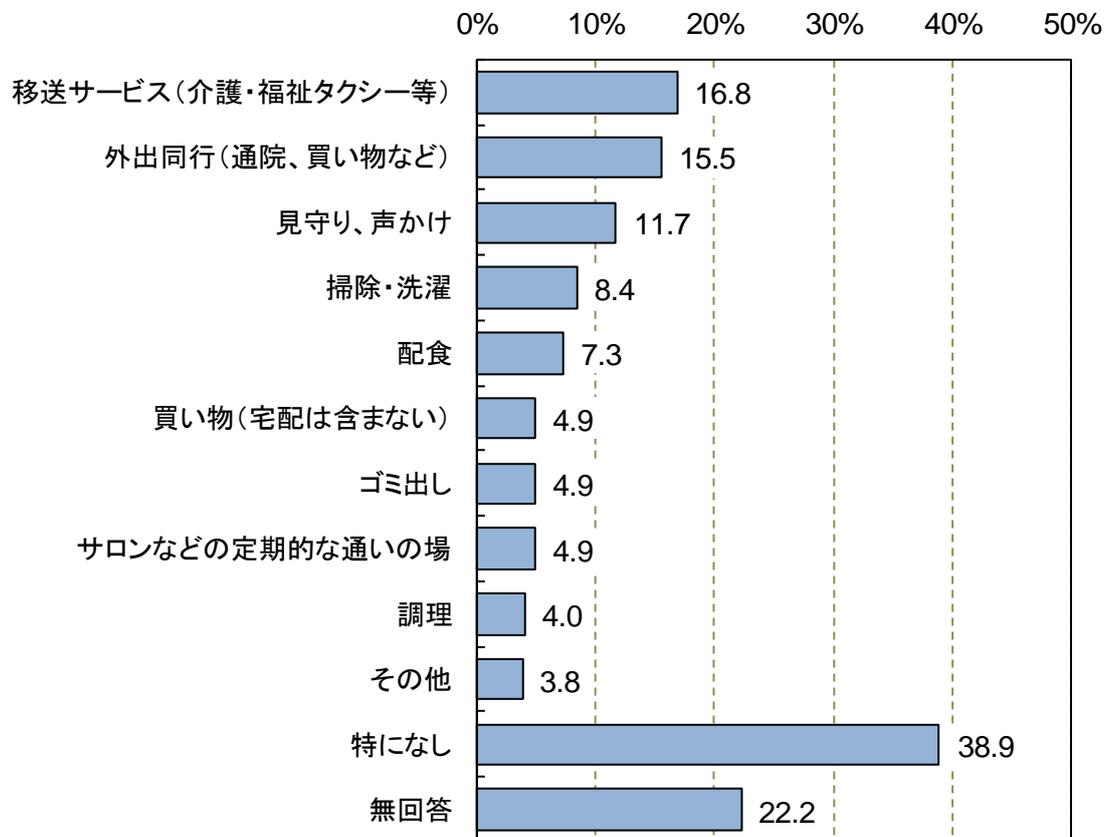


(3) 在宅介護実態調査結果より

① 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）は、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.8%で最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（15.5%）、「見守り、声かけ」（11.7%）、「掃除・洗濯」（8.4%）となっています。

■ 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて

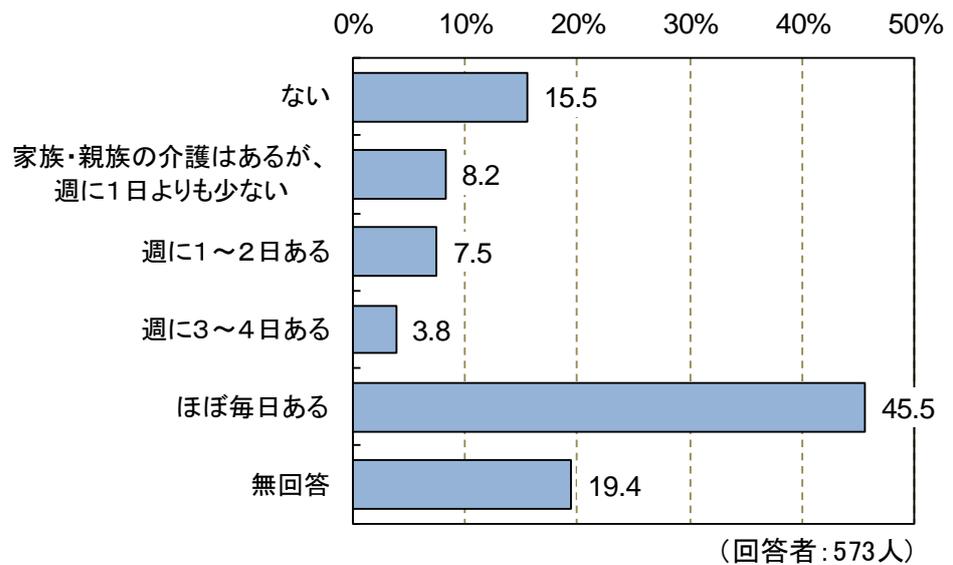


(回答者:573人)

②家族や親族の方からの介護について

家族や親族の方からの介護は、週にどのくらいあるかは、「ほぼ毎日ある」が45.5%となっています。その他、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」(8.2%)、「週に1～2日ある」(7.5%)、「週に3～4日ある」(3.8%)となっており、6割以上が家族や親族からの介護を受けています。

■家族や親族の方からの介護について

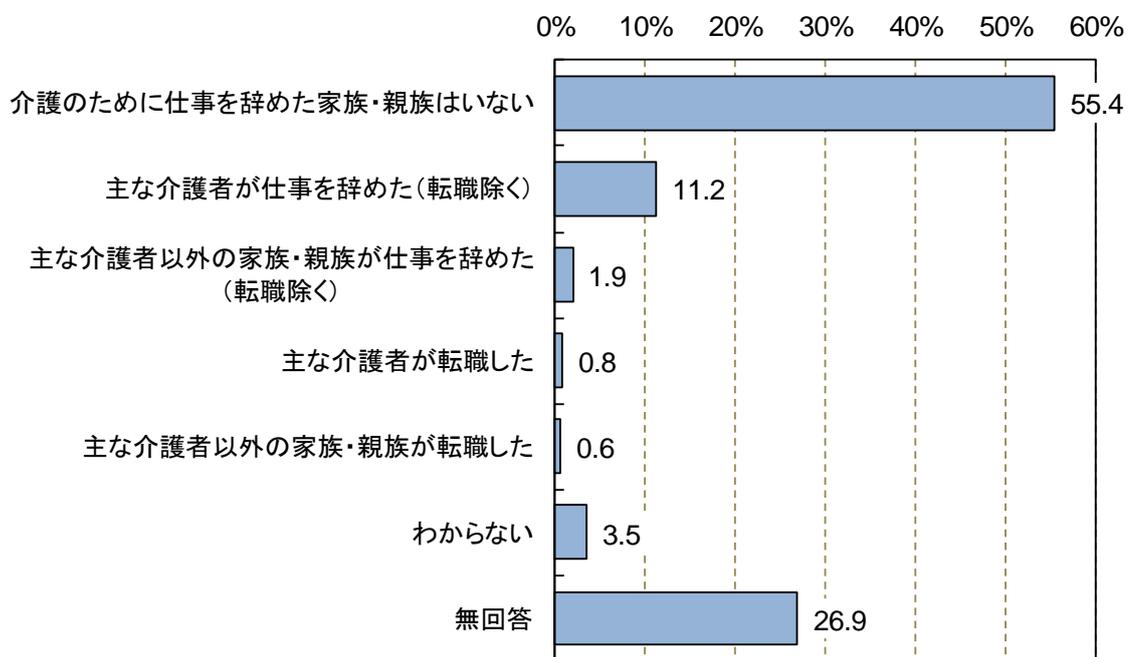


③介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方がいるか

家族や親族の中で、介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方がいるかは、55.4%が「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答しています。

その他、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（11.2%）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.9%）、「主な介護者が転職した」（0.8%）、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」（0.6%）となっており、介護を理由として離職や転職した家族や親族が14.5%います。

■介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方がいるか

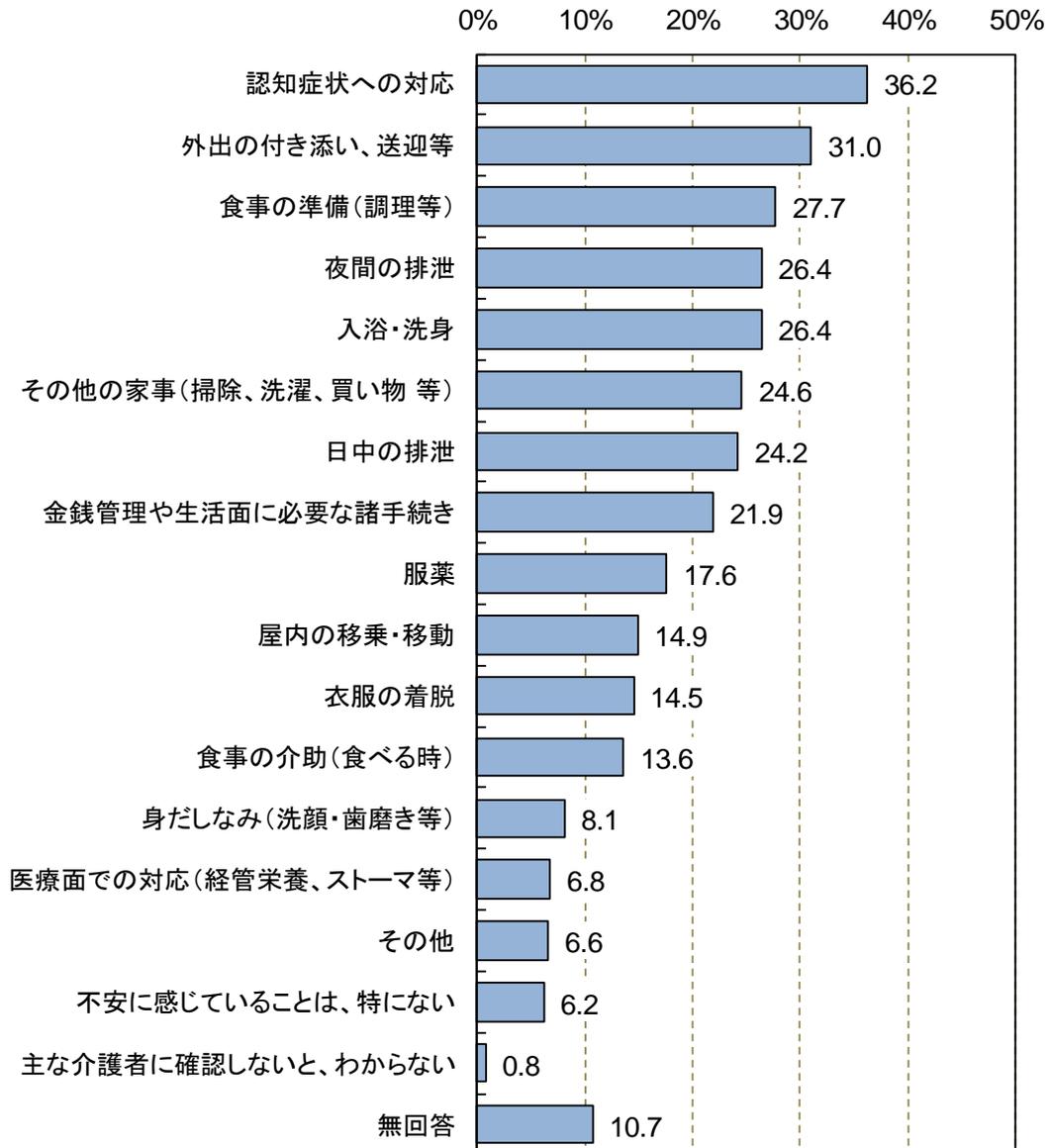


(回答者: 484人)

④主な介護者の方が不安に感じる介護等について

主な介護者の方が不安に感じる介護等の内容は、「認知症状への対応」が36.2%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(31.0%)、「食事の準備(調理等)」(27.7%)となっています。

■主な介護者の方が不安に感じる介護等について

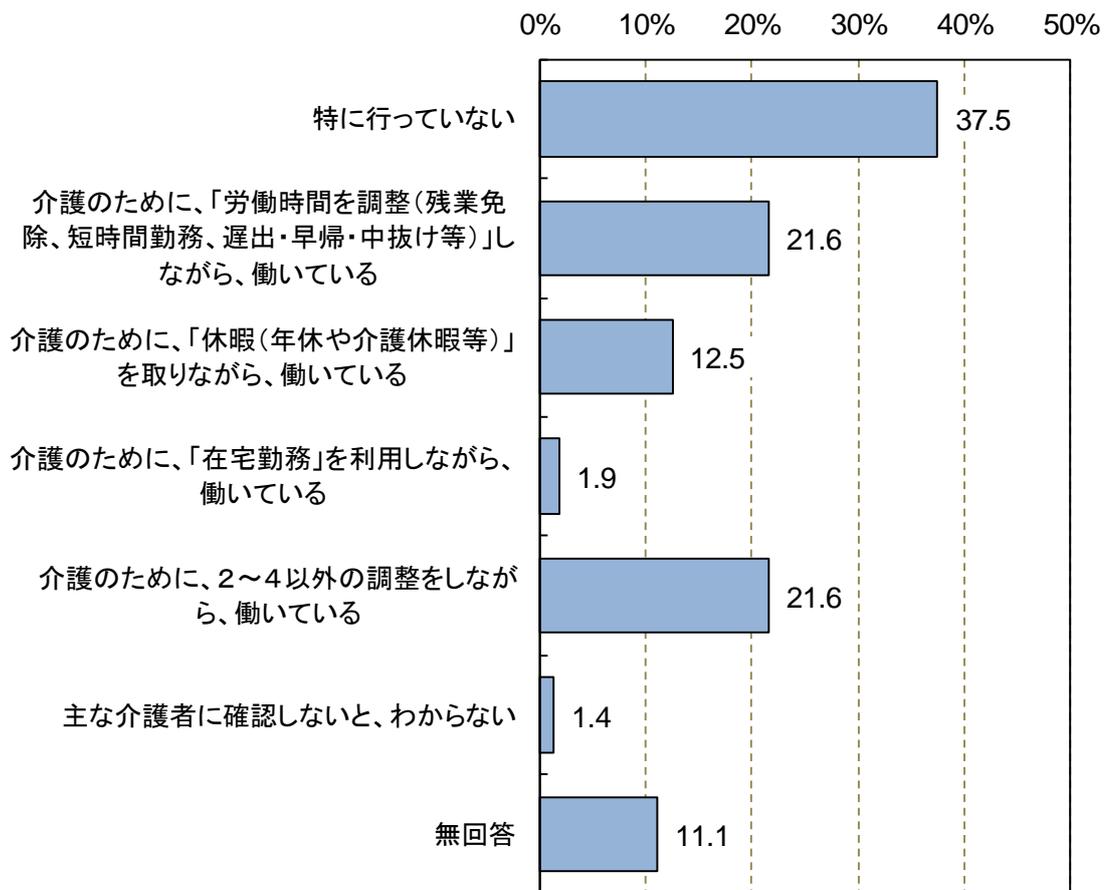


(回答者:484人)

⑤介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしたか

介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしたか尋ねると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」がともに21.6%と最も多く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（12.5%）、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」（1.9%）となっています。

■介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしたか



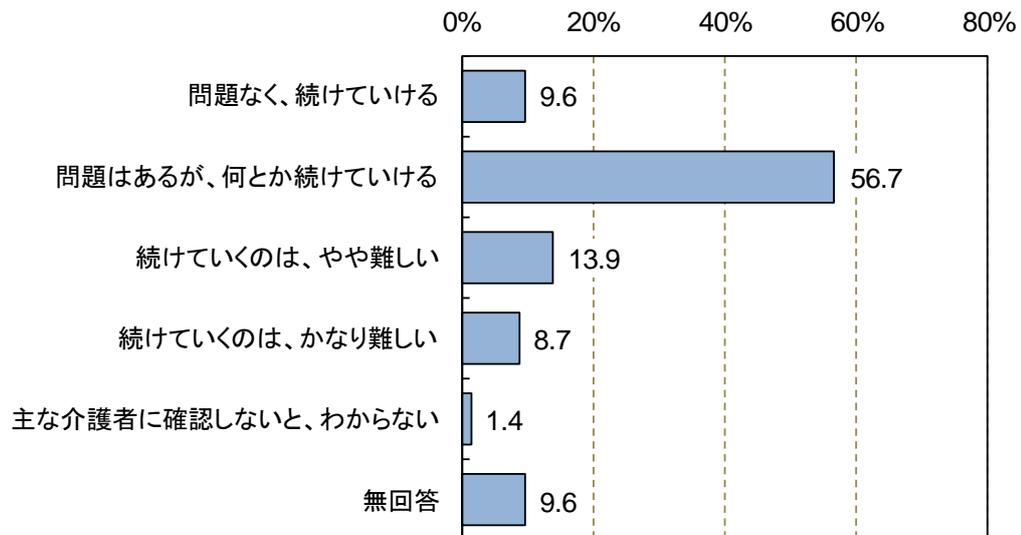
(回答者:208人)

⑥今後も働きながら介護を続けていけそうか

今後も働きながら介護を続けていけそうか尋ねると、「問題なく、続けていける」(9.6%)、「問題はあるが、何とか続けていける」(56.7%)を合わせると66.3%は続けていけると回答しています。

また、「続けていくのは、やや難しい」(13.9%)、「続けていくのは、かなり難しい」(8.7%)を合わせると22.6%は続けていくのは難しいと回答しています。

■今後も働きながら介護を続けていけそうか



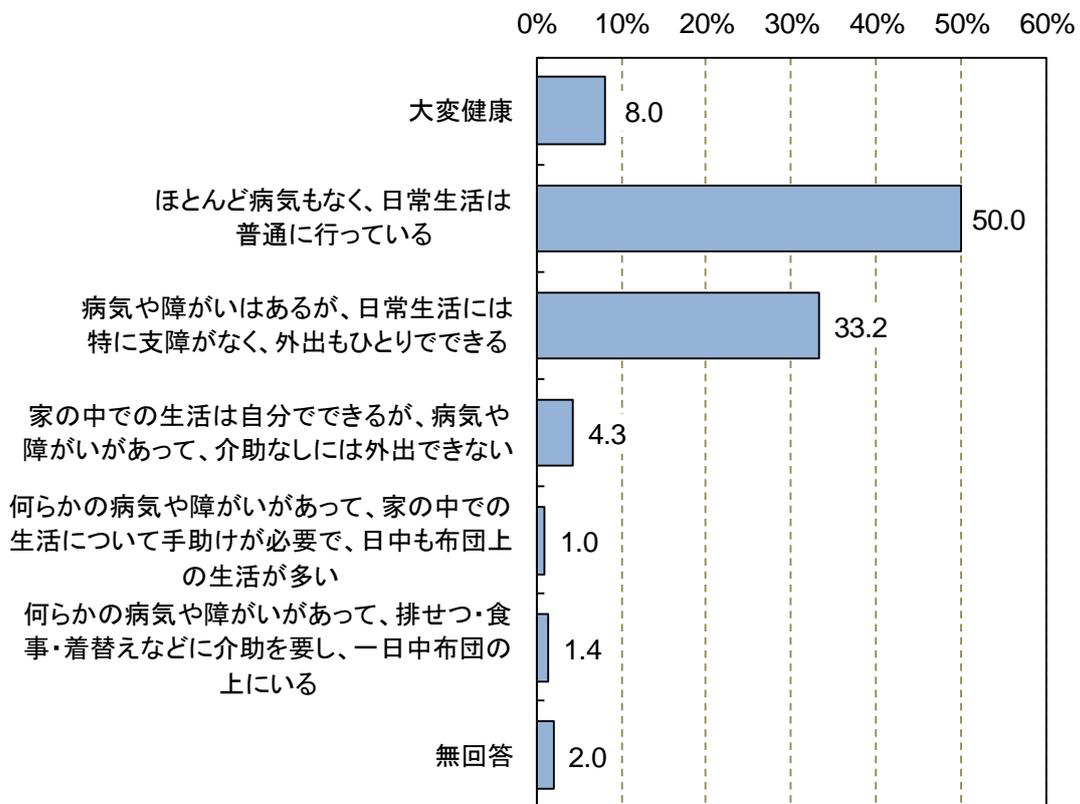
(回答者: 208人)

(4) 意向調査結果より（一般者）

①あなたの健康状態について

現在の健康状態について尋ねたところ、「ほとんど病気もなく、日常生活は普通に行っている」が50.0%で最も多く、次いで、「病気や障がいはあるが、日常生活には特に支障がなく、外出もひとりで行える」（33.2%）も比較的多い回答となっています。

■あなたの健康状態について

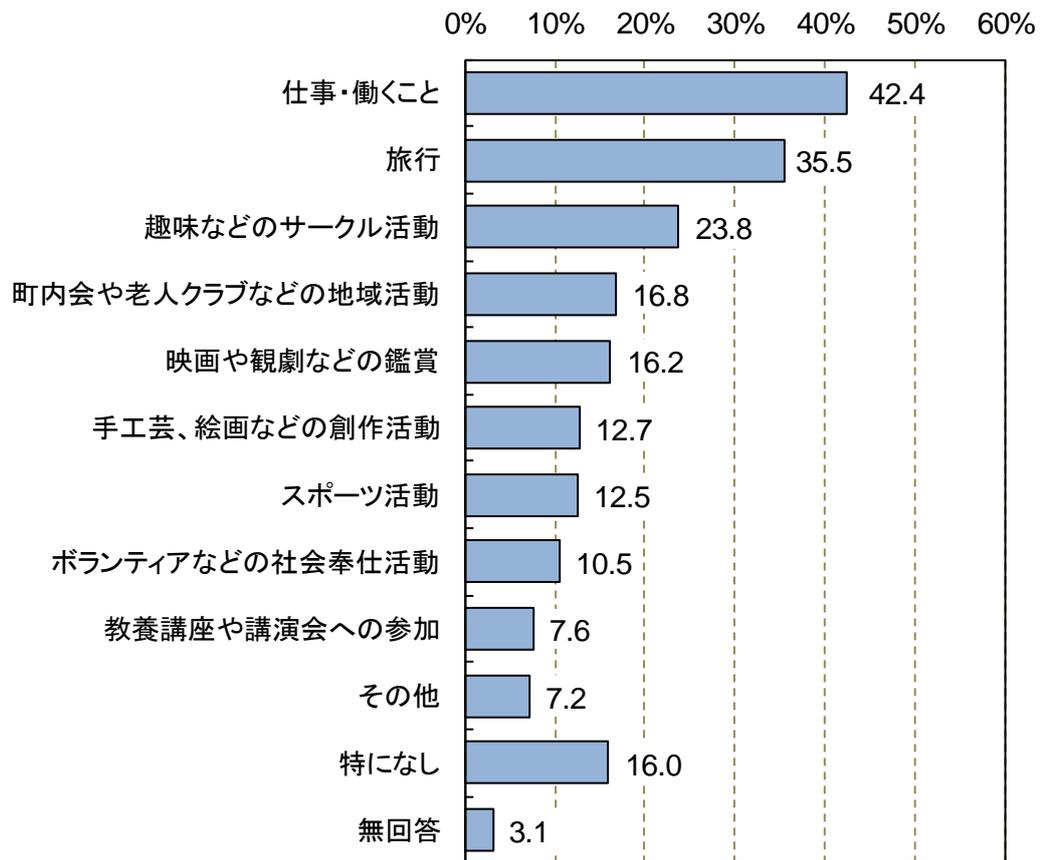


(回答者: 488人)

②あなたの生きがいについて

生きがいや、今後やりたいことなどを尋ねたところ、「仕事・働くこと」が42.4%と最も多く、次いで「旅行」(35.5%)、「趣味などのサークル活動」(23.8%)となっています。

■あなたの生きがいについて(複数回答)

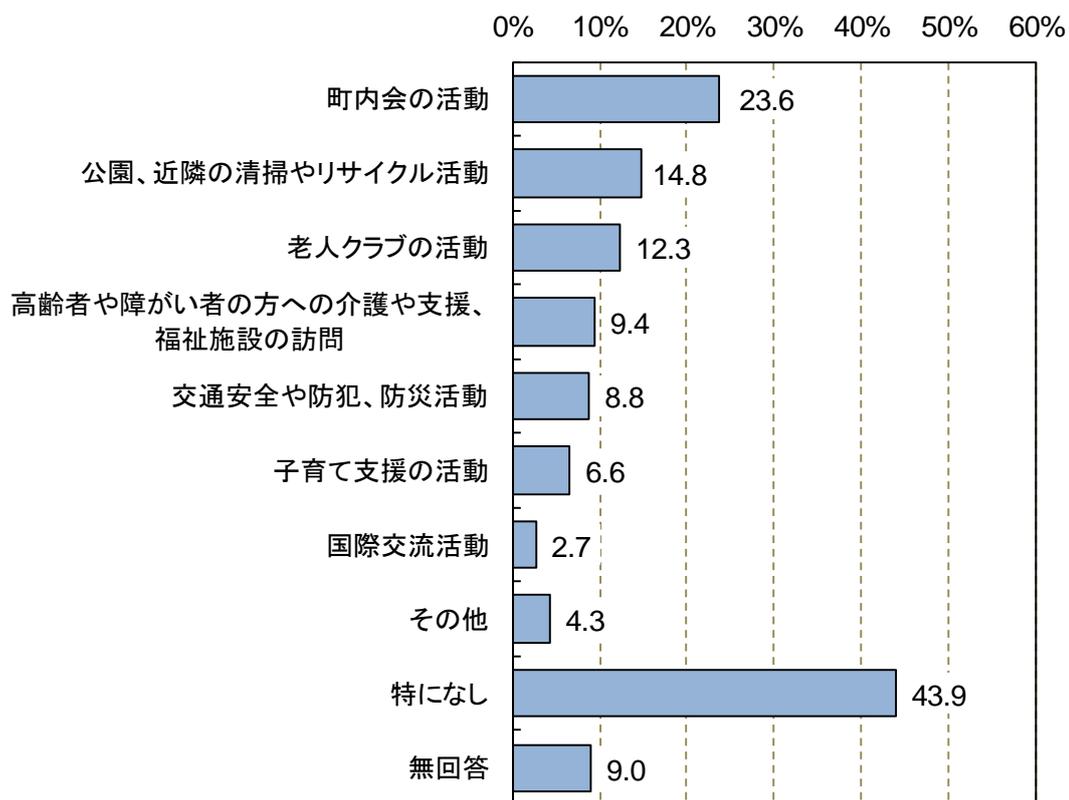


(回答者:488人)

③ボランティア活動や地域活動について

ボランティア活動や地域活動のうち、現在、参加していたり、関心や興味を持っているものはあるか尋ねたところ、「町内会の活動」が23.6%と最も多く、次いで「公園、近隣の清掃やリサイクル活動」(14.8%)、「老人クラブの活動」(12.3%)となっています。

■ボランティア活動や地域活動について(複数回答)

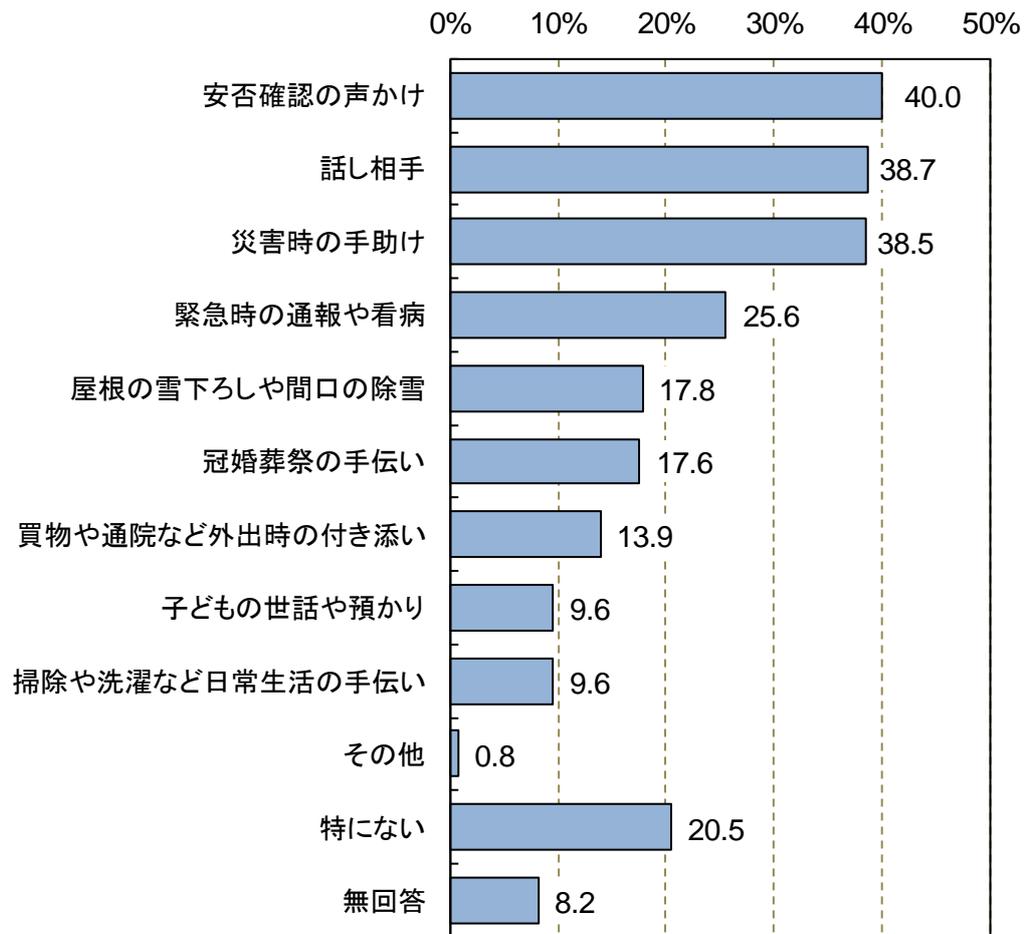


(回答者: 488人)

④地域の人困っている時にできること

地域の人困っている時にできることは、「安否確認の声かけ」40.0%と最も多く、次いで「話し相手」(38.7%)、「災害時の手助け」(38.5%)、「緊急時の通報や看病」(25.6%)となっています。

■地域の人困っている時にできること(複数回答)

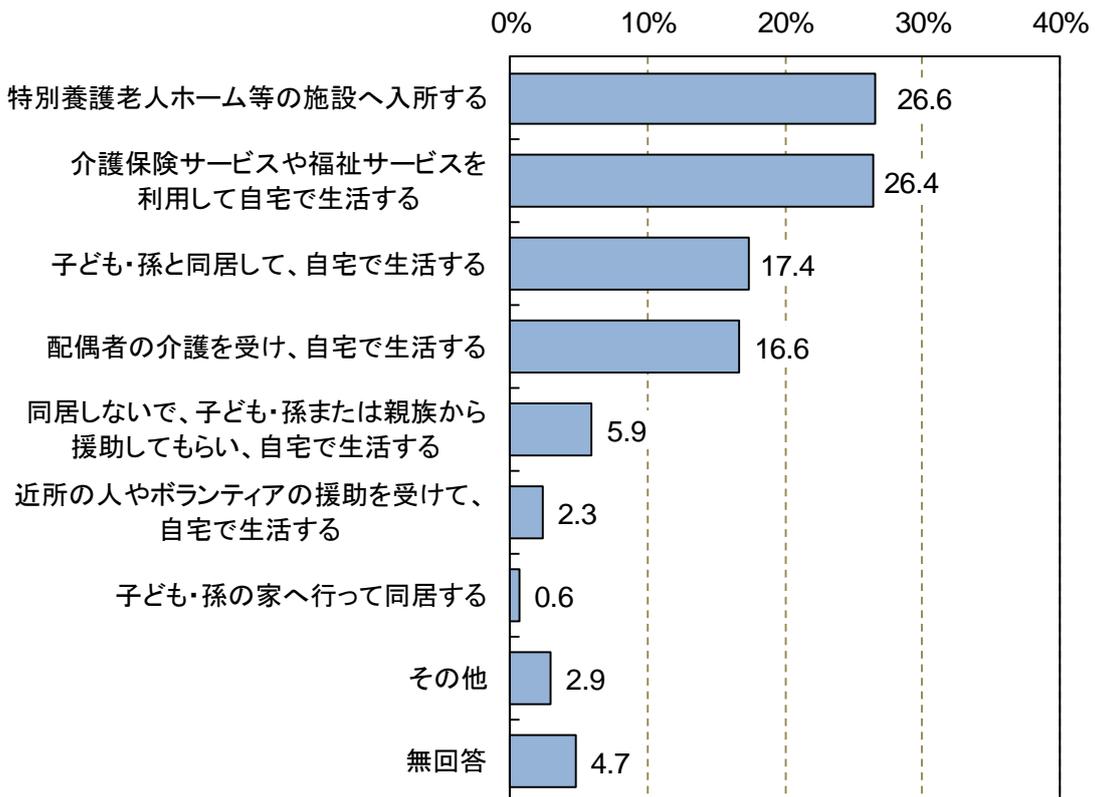


(回答者:488人)

⑤将来の理想とする介護

将来の理想とする介護について尋ねたところ、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所する」が26.6%で最も多く、次いで「介護保険サービスや福祉サービスを利用して自宅で生活する」(26.4%)、「子ども・孫と同居して、自宅で生活する」(17.4%)となっています。

■将来の理想とする介護

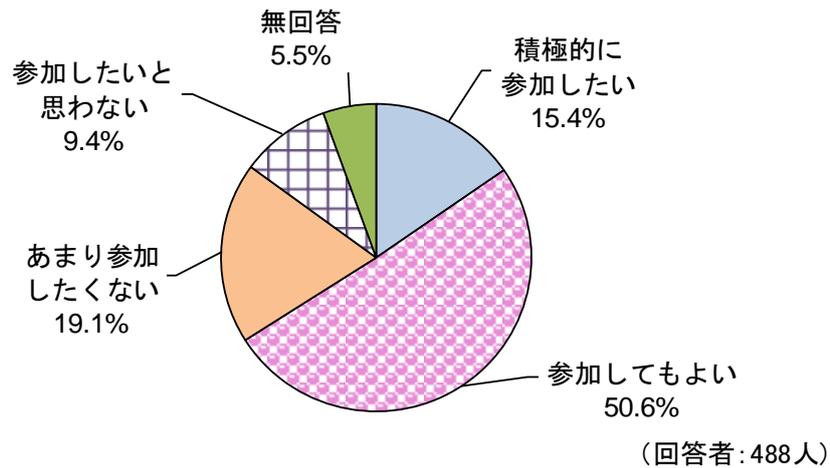


(回答者: 488人)

⑥介護予防事業の参加意向について

介護予防事業への参加を勧められた場合、どうするか尋ねたところ、50.6%が「参加してもよい」と回答しています。「積極的に参加したい」(15.4%)と合わせると、66.0%が参加の意思を示しています。

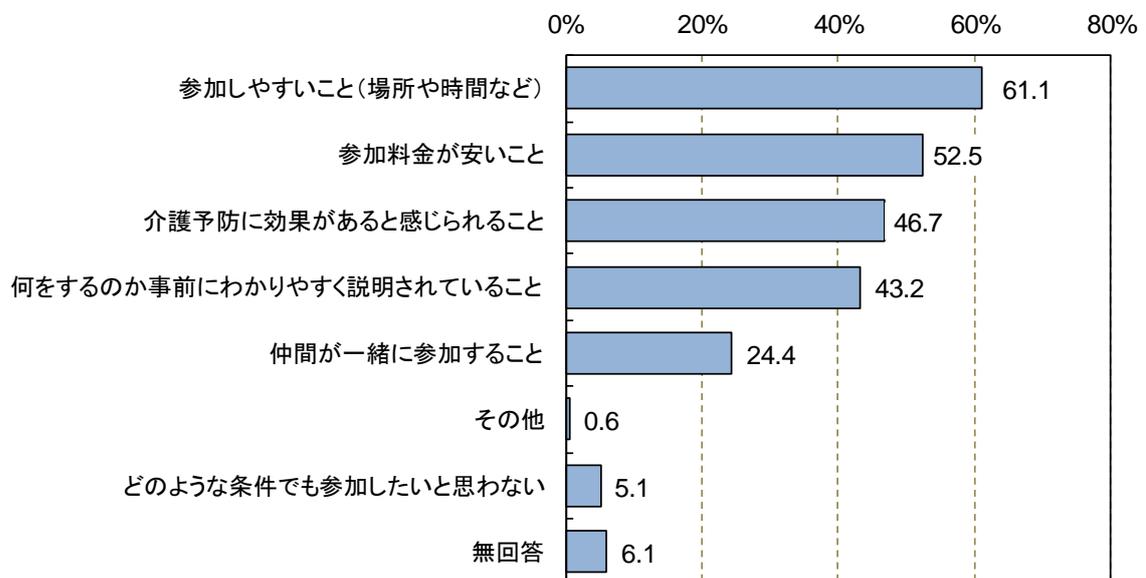
■介護予防事業の参加意向について



⑦介護予防事業を利用する際の優先事項

介護予防事業を利用するとしたら、どんなことを優先させるか尋ねたところ、「参加しやすいこと(場所や時間など)」が61.1%と最も多く、次いで「参加料金が安いこと」(52.5%)、「介護予防に効果があると感じられること」(46.7%)となっています。

■介護予防事業を利用する際の優先事項(複数回答)

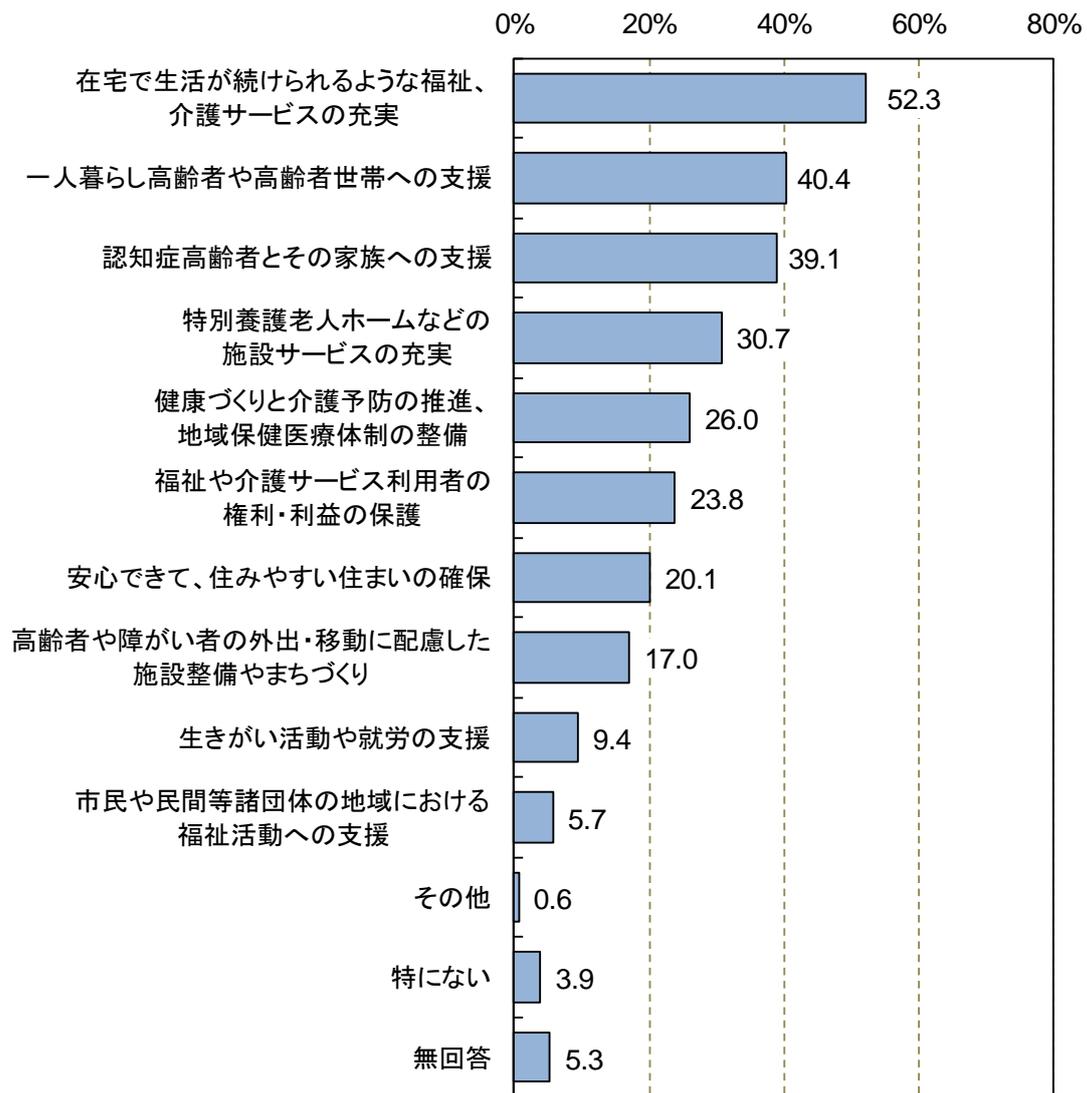


(回答者: 488人)

⑧高齢者保健福祉施策で力を入れていくべきであると思う施策

市町村が高齢者保健福祉施策を進める上で今後、力を入れていくべきと思うものは何か尋ねたところ、「在宅で生活が続けられるような福祉、介護サービスの充実」が52.3%と最も多く、次いで「一人暮らし高齢者や高齢者世帯への支援」(40.4%)、「認知症高齢者とその家族への支援」(39.1%)となっています。

■高齢者保健福祉施策で力を入れていくべきであると思う施策(複数回答)



(回答者: 488人)

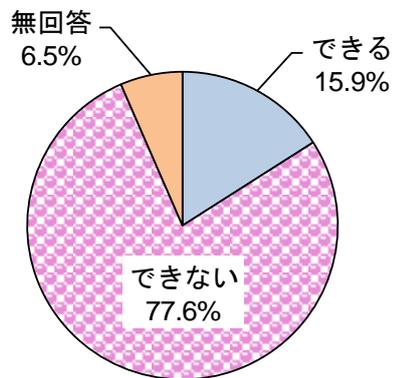
(5) 意向調査結果より（認定者）

①災害時の避難について

災害時に一人で避難できるか尋ねたところ、77.6%が「できない」と回答しています。

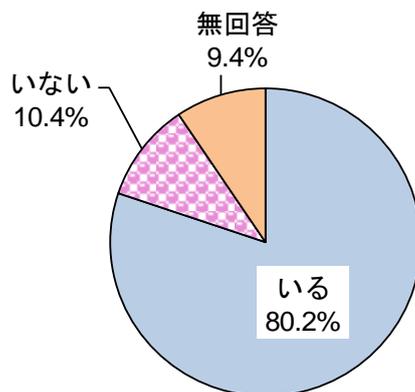
また、災害時に助けてくれる人が近くにいるかについては、80.2%が「いる」と回答しているものの、「いない」という回答も10.4%あります。

■災害時に、一人で避難できるか



(回答者:509人)

■災害時に、助けてくれる人はいるか



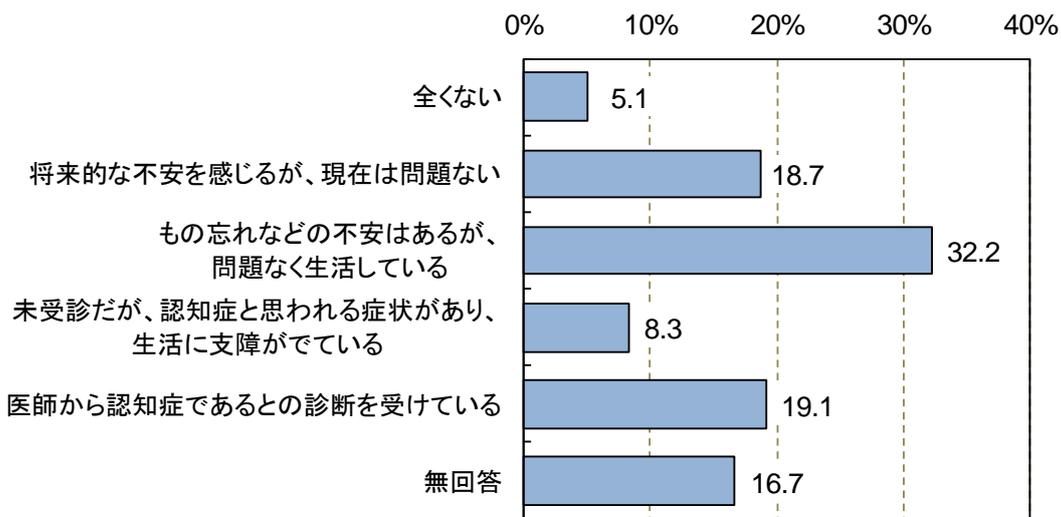
(回答者:509人)

②認知症に対する不安について

普段の生活で、認知症に関して何らかの不安を感じることはあるかは、5.1%が「全くない」、18.7%が「将来的な不安を感じるが、現在は問題ない」と回答しています。

また、「医師から認知症であるとの診断を受けている」（19.1%）、「未受診だが、認知症と思われる症状があり、生活に支障がでている」（8.3%）という回答もあります。

■認知症に対する不安について

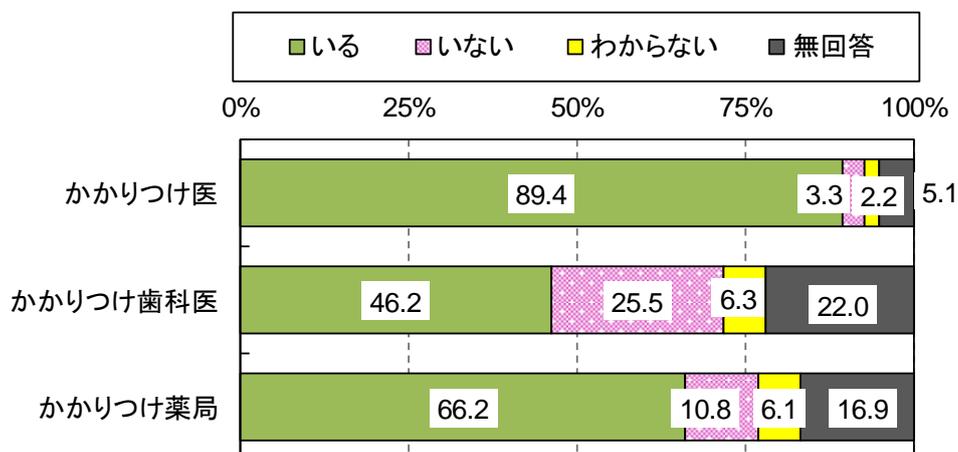


(回答者: 509人)

③かかりつけ医について

健康や病気のことを気軽に相談できる「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」がいるかは、「いる」という回答でみると「かかりつけ医」で89.4%、「かかりつけ歯科医」で46.2%、「かかりつけ薬局」で66.2%となっています。

■かかりつけ医について



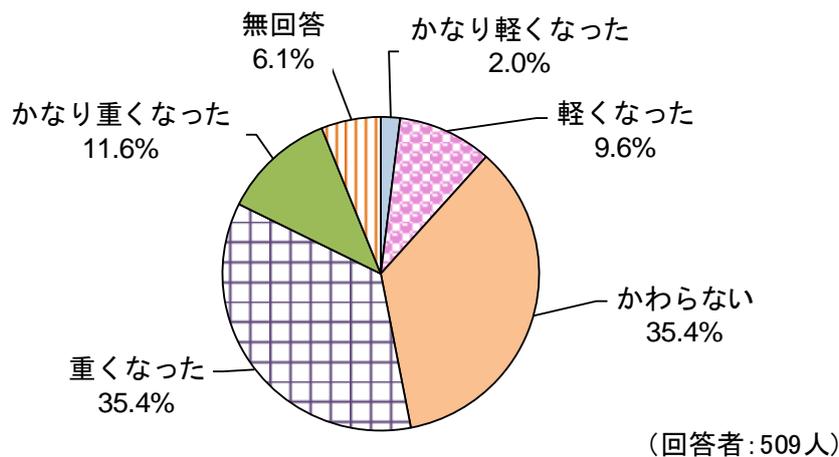
(回答者: 488人)

④要介護認定を受けてからの介護度の変化

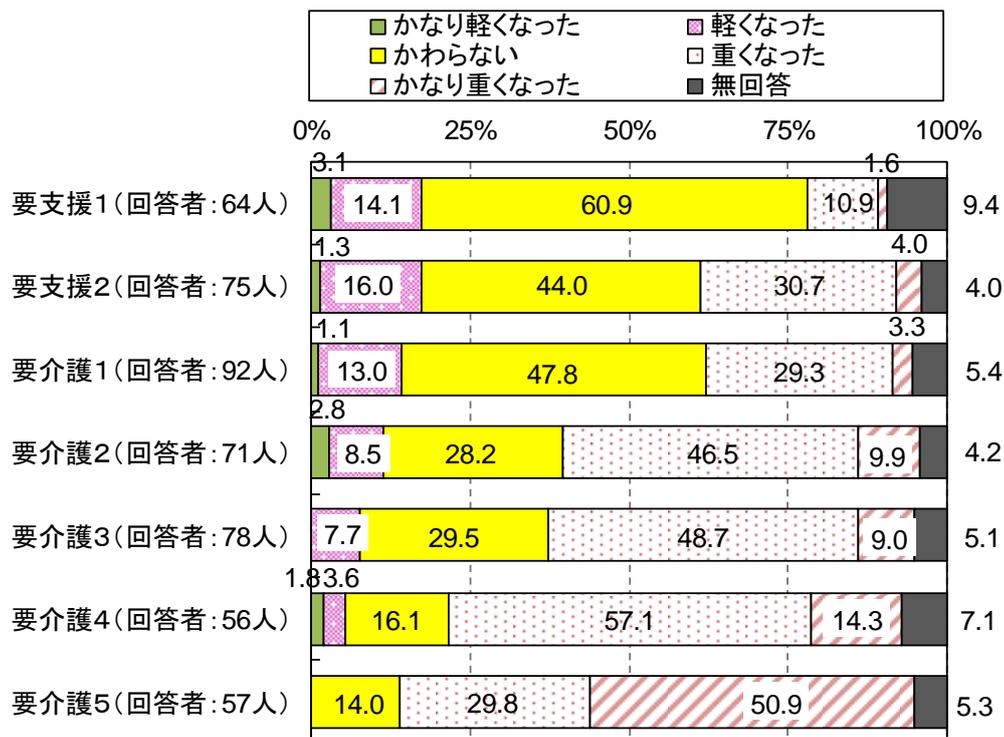
はじめて要介護認定を受けた時と現在の要介護度に変化はあるか尋ねたところ、「かわらない」、「重くなった」がともに35.4%と最も多い回答となっています。

また、要介護度別に要介護度の変化をみると、要支援1・2の比較的要介護度が軽い人に、要介護度の改善がみられるものの、要介護4・5では重くなった人が多くなっています。

■要介護認定を受けてからの介護度の変化



■要介護度別要介護度の変化

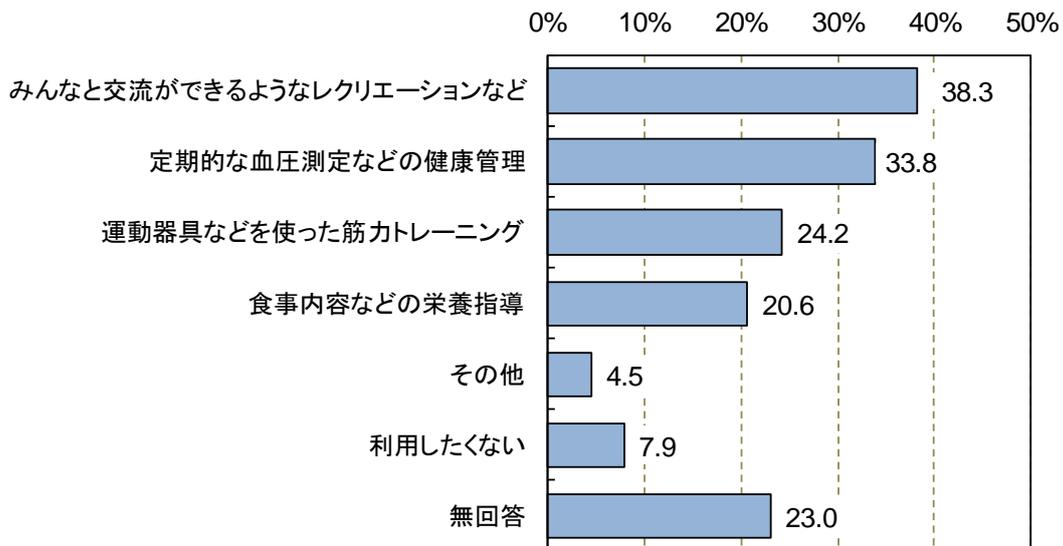


(回答者: 493人)

⑤介護予防が必要と認定された場合に利用したいサービス

介護予防が必要と認定された時、どのようなサービスを利用したいか尋ねたところ、「みんなと交流ができるようなレクリエーションなど」が38.3%で最も多く、次いで「定期的な血圧測定などの健康管理」(33.8%)、「運動器具などを使った筋力トレーニング」(24.2%)となっています。

■介護予防が必要と認定された場合に利用したいサービス(複数回答)

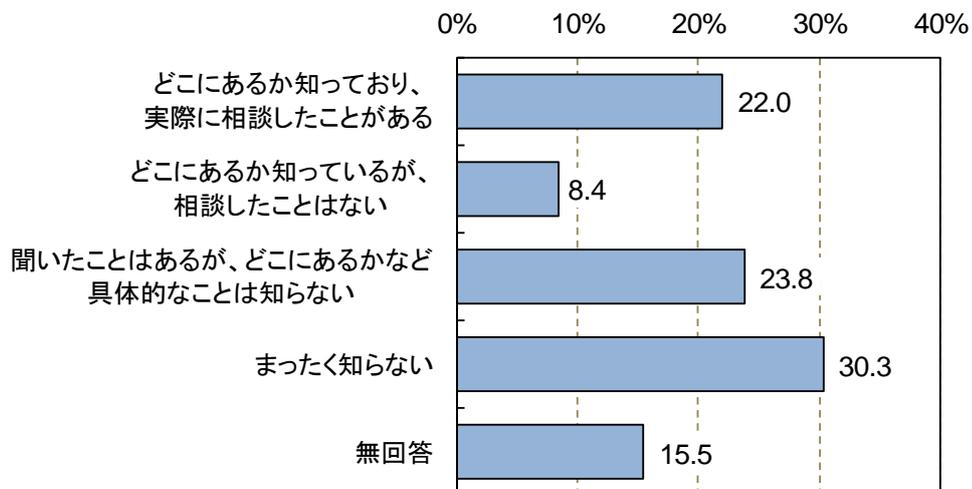


(回答者: 509人)

⑥「地域包括支援センター」の認知度

「地域包括支援センター」について知っているか尋ねたところ、30.3%が「まったく知らない」、23.8%が「聞いたことはあるが、どこにあるかなど具体的なことは知らない」と回答しています。

■「地域包括支援センター」の認知度

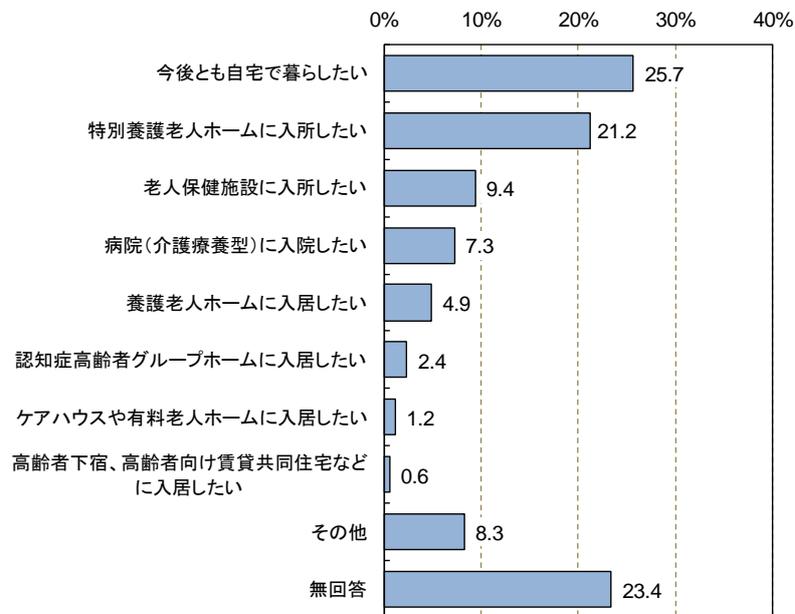


(回答者: 509人)

⑦自分の身の回りのことができなくなったとき、どんな暮らしを考えているか

身の回りのことが自分でできなくなったときに、どのような暮らしを考えているか尋ねたところ、「今後とも自宅で暮らしたい」が25.7%で最も多くなっています。

■自分の身の回りのことができなくなったとき、どんな暮らしを希望するか

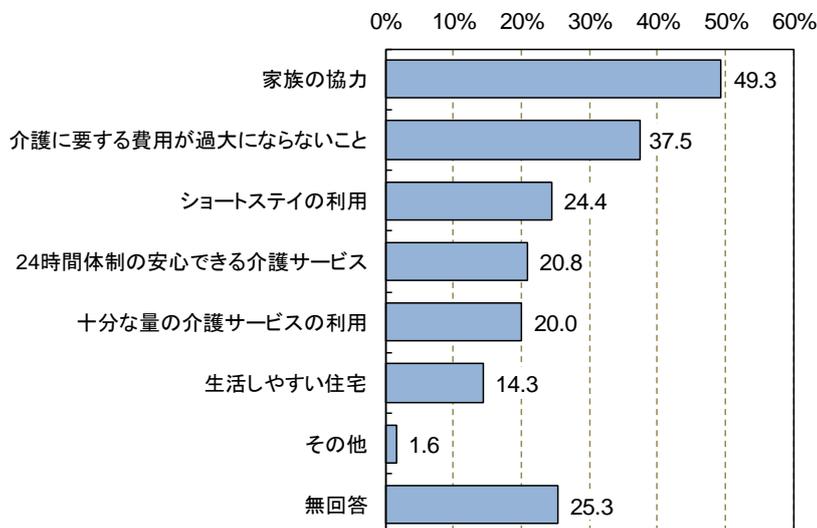


(回答者: 509人)

⑧在宅生活を続けるために必要なこと

在宅生活を続けるために必要だと思うことを尋ねたところ、「家族の協力」が49.3%で最も多く、次いで「介護に要する費用が過大にならないこと」(37.5%)となっています。

■在宅生活を続けるために必要なこと(複数回答)

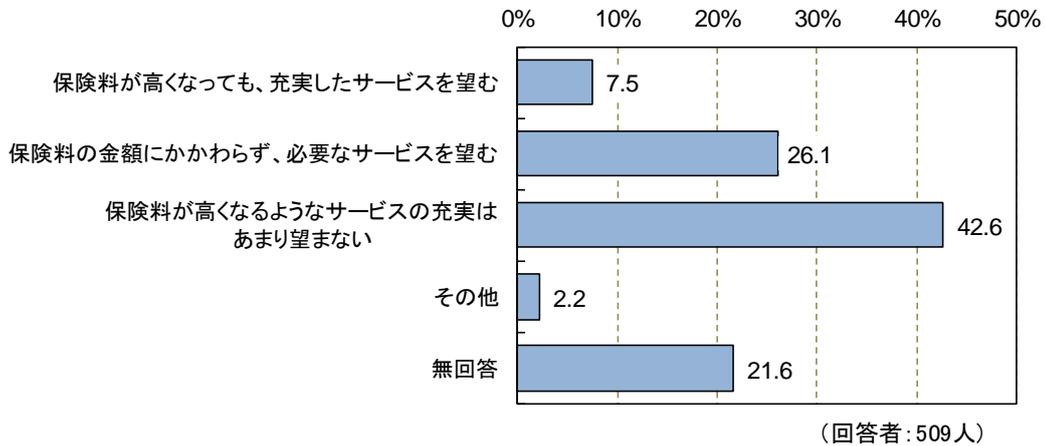


(回答者: 509人)

⑨介護保険料について

介護保険制度のあり方について尋ねたところ、42.6%が「保険料が高くなるようなサービスの充実はあまり望まない」と回答しています。

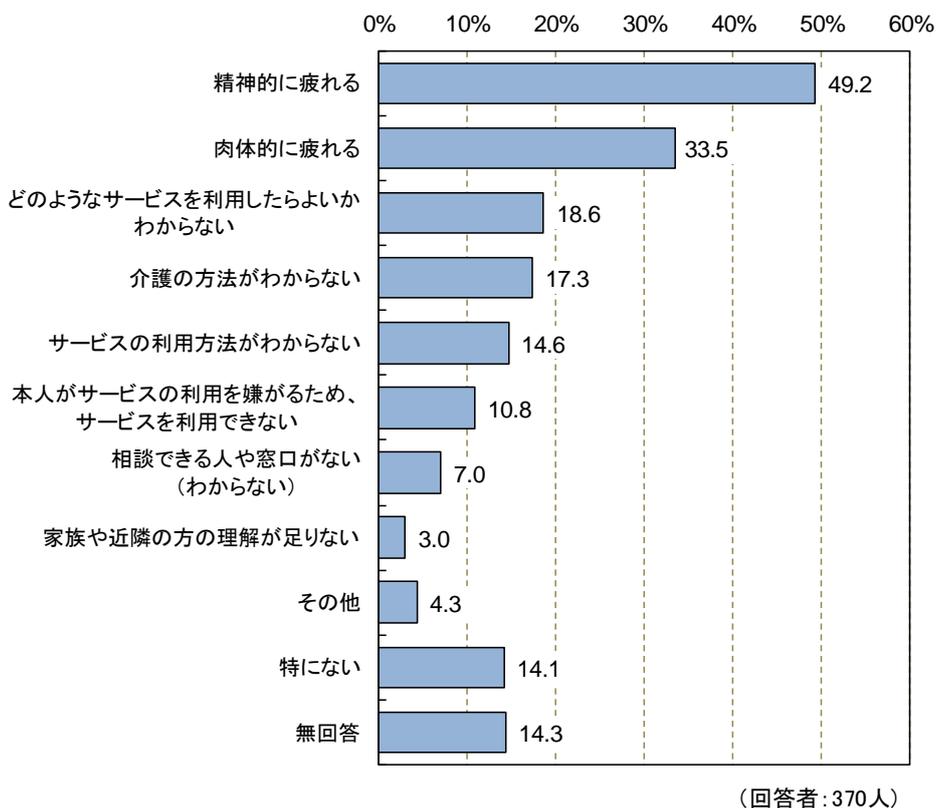
■介護保険料について



⑩介護をする上で困っていること

介護をする上で困っていることを尋ねると、「精神的に疲れる」が49.2%と最も多く、次いで「肉体的に疲れる」(33.5%)と回答しています。

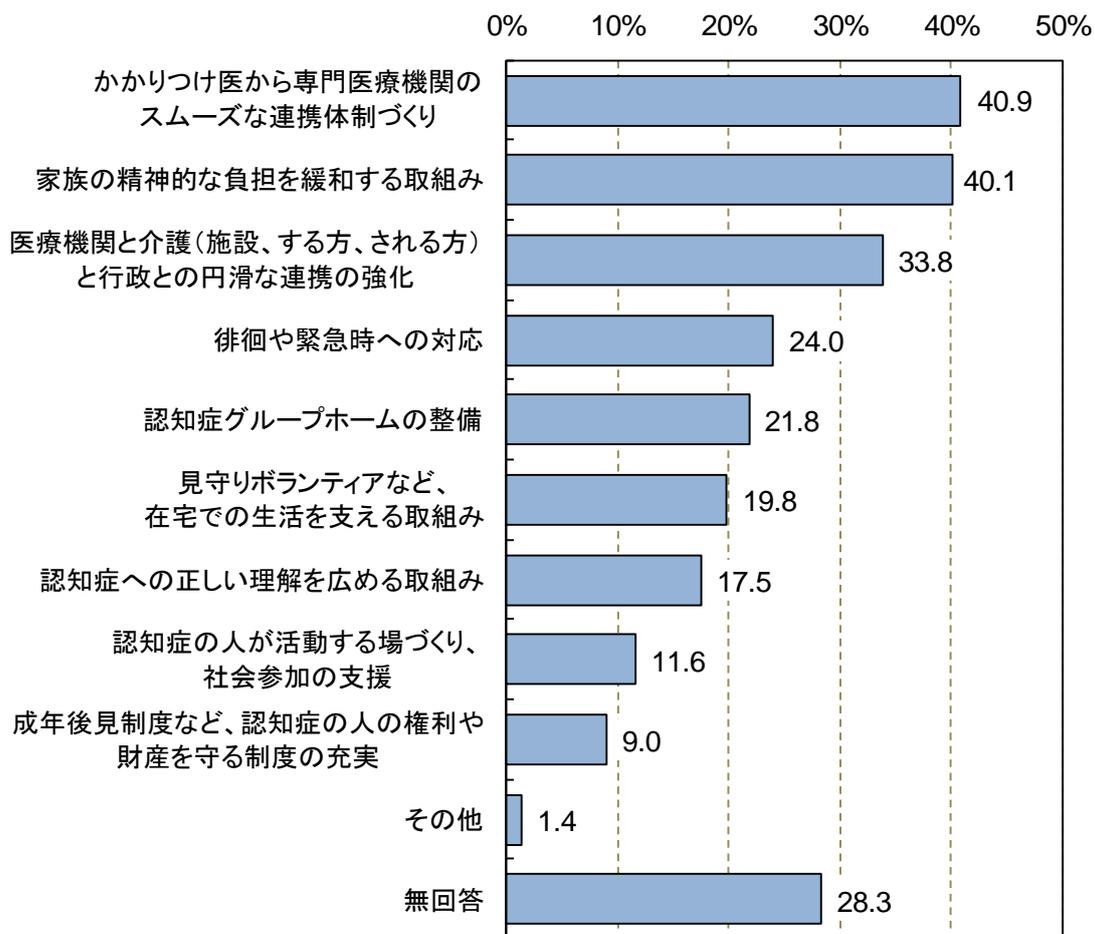
■介護をする上で困っていること(複数回答)



⑪認知症対策を進めていくうえで、重点を置くべきと思う施策

認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきか尋ねると、「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」が40.9%と最も多く、次いで「家族の精神的な負担を緩和する取組み」(40.1%)、「医療機関と介護(施設、する方、される方)と行政との円滑な連携の強化」(33.8%)となっています。

■認知症対策を進めていくうえで、重点を置くべきと思う施策(複数回答)



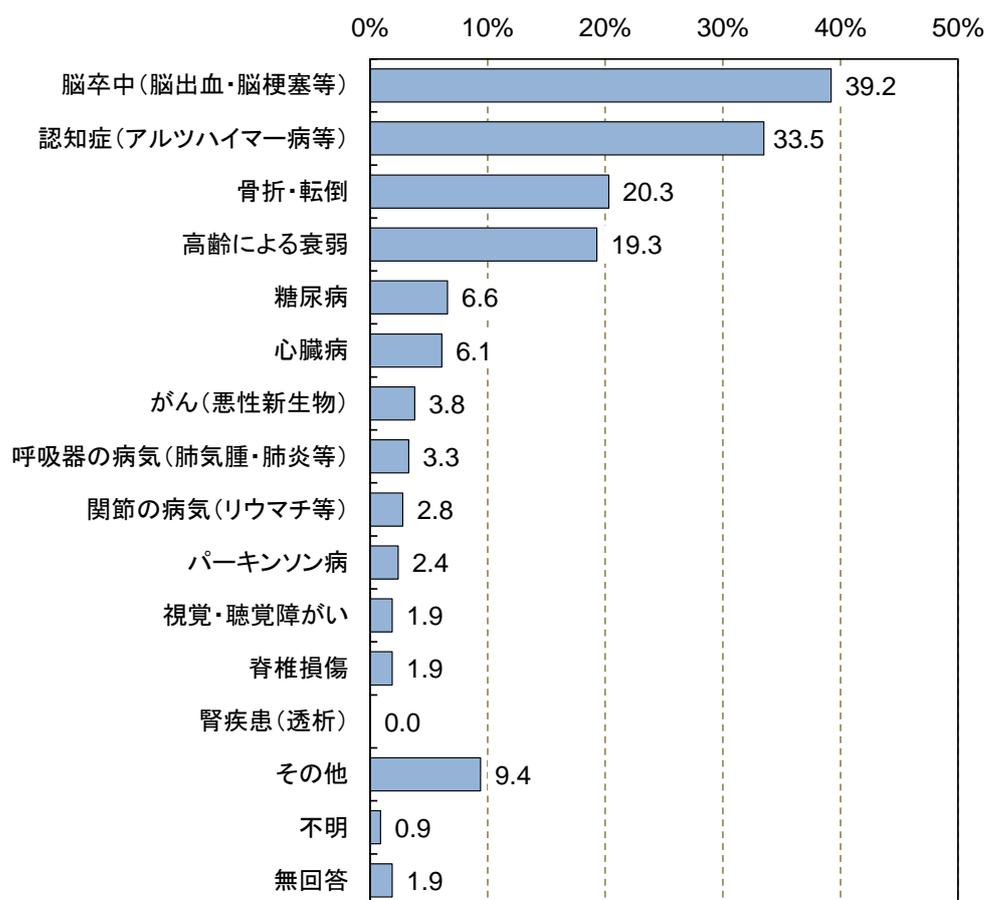
(回答者: 509人)

(6) 意向調査結果より（施設サービス利用者）

①介護が必要となった主な原因

介護が必要となった主な原因は、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が39.2%と最も多く、次いで「認知症（アルツハイマー病等）」（33.5%）、「骨折・転倒」（20.3%）となっています。

■介護が必要となった主な原因（複数回答）

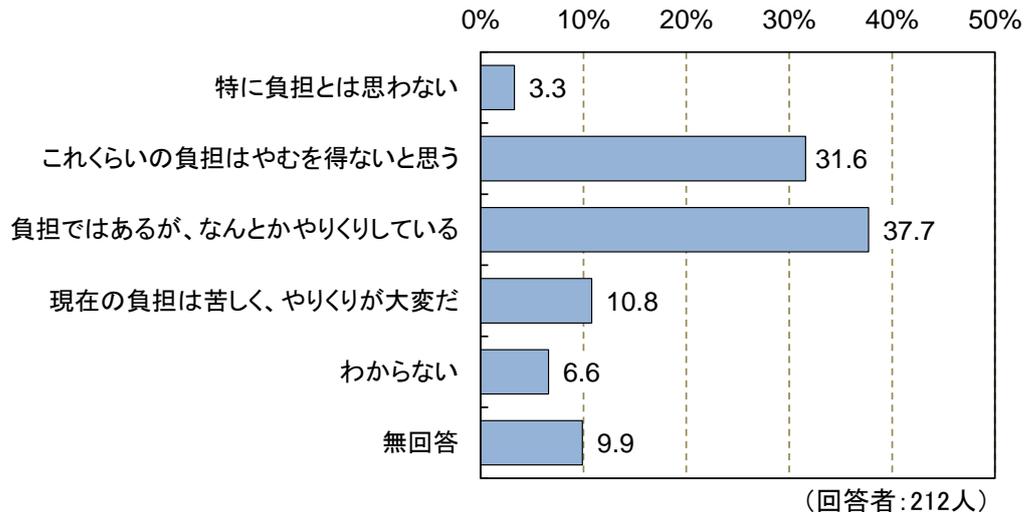


(回答者:212人)

②介護保険料について

現在支払っている介護保険料についての考えを尋ねたところ、「負担ではあるが、何とかやりくりしている」が37.7%で最も多く、次いで、「これくらいの負担はやむを得ないと思う」(31.6%)、「現在の負担は苦しく、やりくりが大変だ」(10.8%)となっています。

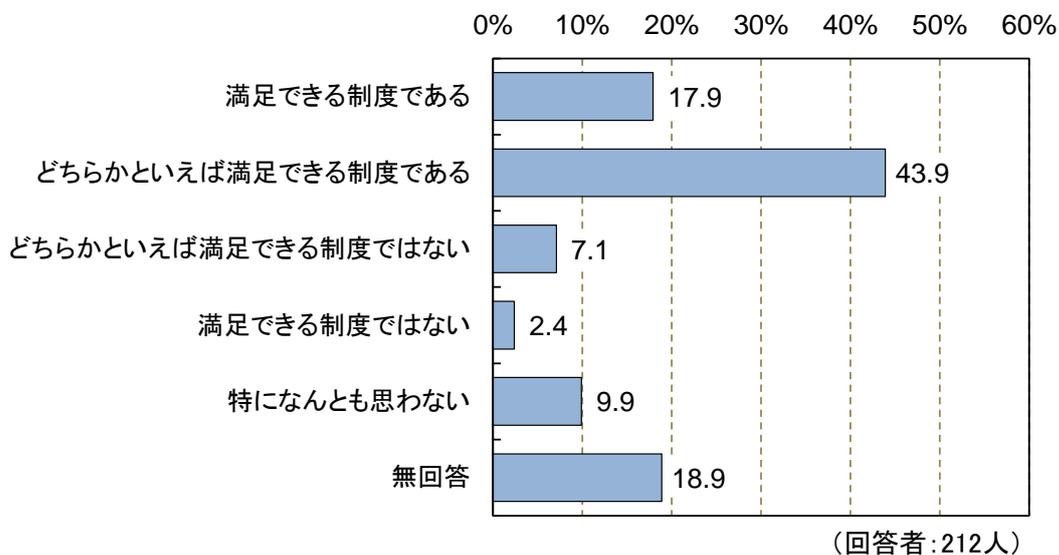
■介護保険料について



③介護保険制度について

介護保険制度全般についてどのように思うか尋ねたところ、「どちらかといえば満足できる制度である」が43.9%で最も多く、「満足できる制度である」(17.9%)と合わせると、61.8%が満足できる制度と回答しています。

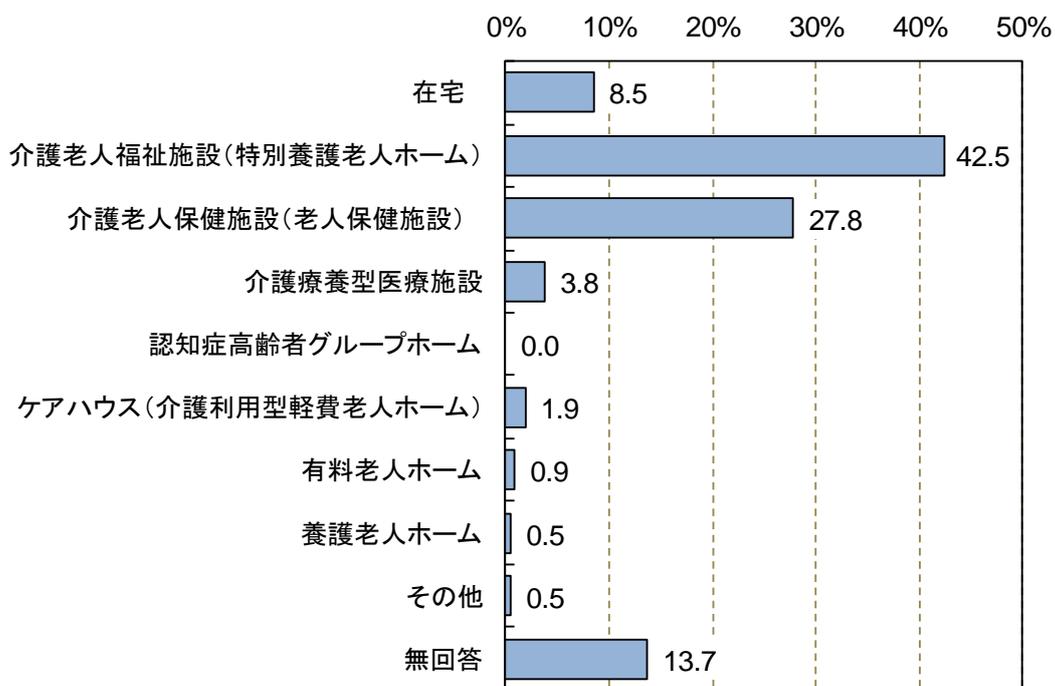
■介護保険制度について



④今後どこで介護を受けたいと考えるか

本人の希望として、今後どこで介護を受けたいか尋ねたところ、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が42.5%と圧倒的に多くなっています。

■介護を受けたい場所・施設



(回答者:212人)